

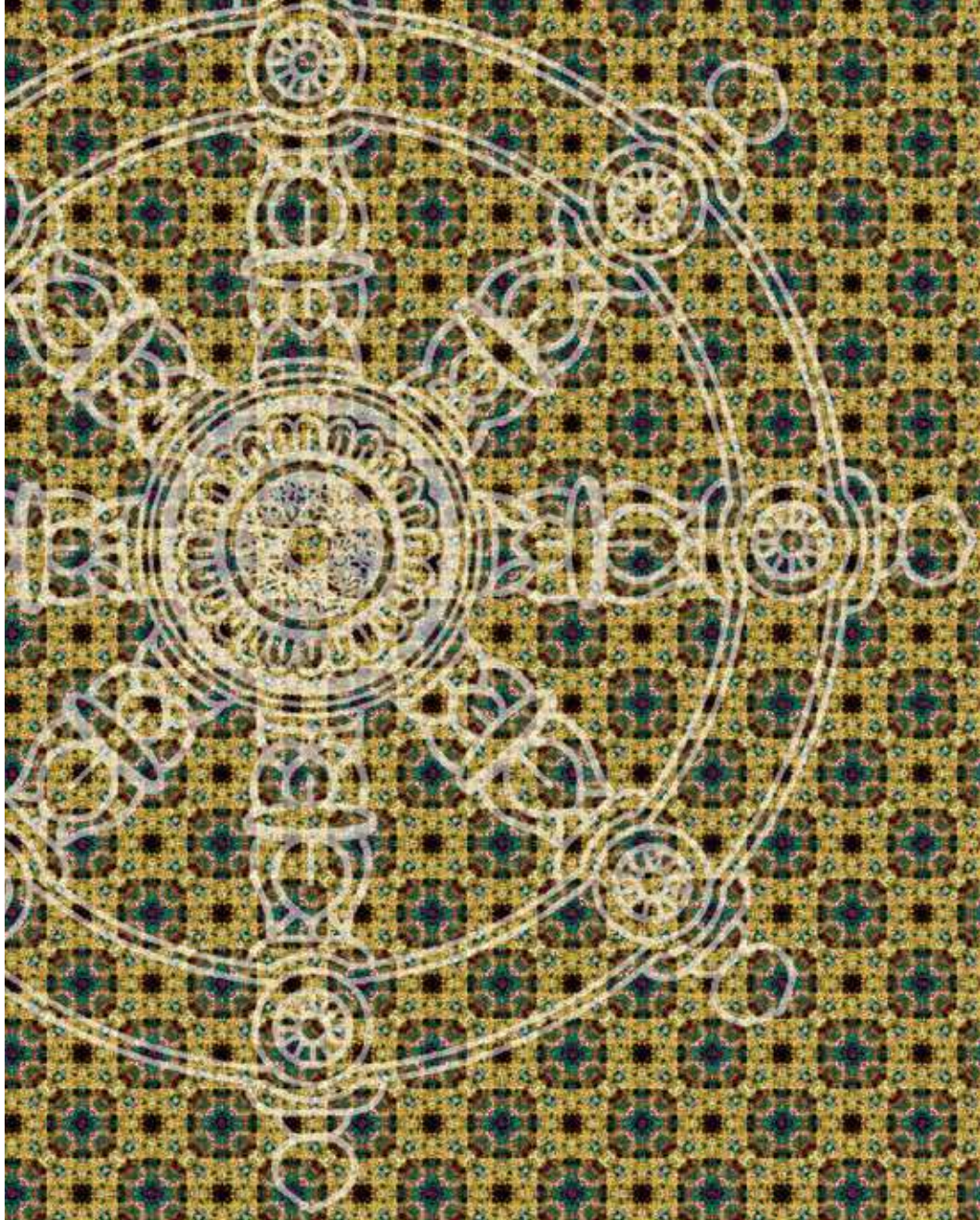
道

みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.06

2017



BDK
Newsletter

02

公益財団法人 仏教伝道協会 平成28(2016)年度の主な活動

1. 出版事業

- 特集!心を育てる こども仏教塾『ブツガがせんせい』刊行
～いま教育機関で選ばれる理由
*『ブツガがせんせい』と幼児教育の未来(於 淑徳大学短期大学部・淑徳幼稚園)
- 第1回「こころの絵本大賞」受賞作品 発表
- 『仏教聖典』頒布の今 平成28(2016)年度の頒布状況等
- シリーズインタビュー 『仏教聖典』を訪ねて
*宗教を越え教育現場でも活用される『仏教聖典』(於 桜美林大学)
- 第3回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」
写真展「第2回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催
- BDK「英訳大蔵経」事業報告 ～新編集委員長にケネス田中氏就任

2. 助成・表彰事業

- 奨学金事業報告
*平成28(2016)年度「外国人留学生奨学金」受給者
*平成28(2016)年度「日本人留学生奨学金」受給者
- 第50回仏教伝道文化賞 文化賞概要と受賞者紹介
- 助成事業新制度スタート

3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

- 第46回実践布教研究会開催(於 法相宗大本山薬師寺)
- 「仏教香道講座」開催(於 仏教伝道センタービル)
- 設立50周年記念「仏教伝道協会記念館」オープン(於 仏教伝道センタービル)
- 寺院に泊まる 僧侶と巡る「リアル修行体験の旅」開催(於 天台宗総本山比叡山延暦寺)
- 「特別坐禅会」開催(於 曹洞宗大本山總持寺)
- 仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」開催(於 仏教伝道センタービル)
- 各種講座のご案内
- 仏教を初歩英語で学ぶ会「仏教英語ガイド」プログラム新設
- 平成28(2016)年度 BDKシンポジウム「ココロのゆくえ」開催(於 仏教伝道センタービル)
- ちょっとひと休み 現代人のための「月1精進料理生活」のすすめ
*「精進ゆば」を使った自宅簡単ほっこりごはんレシピ:天台宗福昌寺 飯沼康祐師
- 発願者 沼田恵範 二十三回忌を経て

34

海外協力機関のご紹介

- 北米地区
*米国仏教伝道協会
*ハワイ仏教伝道協会
- 中南米地区
*メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺
- アジア地区
*アジア仏教伝道協会
*台湾仏教伝道協会
- 欧州地区
*ヨーロッパ仏教伝道協会・「恵光」日本文化センター
*英国仏教伝道協会
*ポーランド仏教伝道協会

42

“ささえあって” 「平和」



公益財団法人 仏教伝道協会

BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.6 2017-5,000

平成29(2017)年6月1日発行(毎年1回発行)

発行 公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
電話: 03-3455-5851(代)
FAX: 03-3798-2758

編集・撮影 江口 郁(公益財団法人 仏教伝道協会)
印刷 株式会社アーク/デザイン 田所淳一



喪主 沼田恵明氏

沼田智秀 第二代会長逝去

公益財団法人 仏教伝道協会 沼田智秀 第二代会長(株式会社 ミットヨ相談役)は、かねてより病氣療養中でありましたが、平成29(2017)年2月16日に逝去いたしました。



築地本願寺



焼香



葬儀委員長 中川徹氏

密葬は近親者のみで済まされ、3月30日、築地本願寺（東京都中央区）において、公益財団法人仏教伝道協会と株式会社ミットヨによる合同葬儀（喪主 株式会社ミットヨ 代表取締役社長 沼田恵明氏、葬儀委員長 株式会社ミットヨ 代表取締役会長 中川徹氏）を執り行いました。

沼田智秀会長は、昭和60（1985）年に父である沼田恵範 当財団発願者（初代会長）より会長職を引き継ぎ、以来、『仏教聖典』頒布、世界の主要大学への「沼田仏教講座」開設、「英訳大藏経」事業など主要事業の充実・発展に努め、さらに近年は、より広く一般の方がたに仏教精神に触れていただくための講座開催を推進するなど、生涯にわたり、精力的また献身的に「一筋の道」を歩み続けました。

ここに皆さまより賜りました生前のご厚誼に深く感謝するとともに、お寄せいただきましたご弔意に謹んで御礼申し上げます。

仏教伝道協会は、沼田恵範発願者ならびに沼田智秀第二代会長の遺志を引き継ぎ、仏法興隆と世界平和の実現に貢献すべく、これからも精進して参る所存でございます。

何卒引き続きご教導賜りますよう、お願い申し上げます。

合 掌

出版事業 特集

心を育てる こども仏教塾 『ブツダがせんせい』刊行

いま教育機関で選ばれる理由わけ

『ブツダがせんせい』と幼児教育の未来

少子化が目目され久しい昨今ですが、そのような中でも、多くのこどもたちは今も昔も変わらず、明るく元気に毎日を過ごしています。こどもたちの未来には、無限の可能性と様々な選択肢があり、それらを示してあげるのが大人たちの大きな役割のひとつではないでしょうか。

公益財団法人 仏教伝道協会（以下 仏教伝道協会）では、多くの可能性が溢れる世界で生きるこどもたちが「やさしく、正しく、つよい心」を育てる一助になれば、との思いから平成28（2016）年7月に『心を育てる こども仏教塾—ブツダがせんせい』（以下『ブツダがせんせい』）を刊行しました。

『ブツダがせんせい』は、当初より多くのお問い合わせをいただき、現在様々な教育現場でもご利用いただいています。なかでも淑徳大学短期大学部（前原英明学長）や淑徳幼稚園（菊地悦子園長）では、将来の教育者を目指す学生の皆さんが学ぶ講義の場や園児の皆さんの毎日の生活の中で、「心を育てる・こども仏教塾」の名にふさわしい活用をいただいています。

この度は、なぜ教育現場で『ブツダがせんせい』が活用されているのか、また幼児教育の未来を考えるべく、淑徳大学短期大学部および淑徳幼稚園の全面的なご協力のもと、そのひみつを探ってきました。



◎取材協力 淑徳大学短期大学部、淑徳幼稚園（東京都板橋区）
◎取材場所 淑徳大学短期大学部、淑徳幼稚園（東京都板橋区）
◎編集・撮影（公財）仏教伝道協会 江口郁





所に見られ、学生の興味を引く力を持っていますので、今後も授業において使用していきたいと思えます。

まずは、こども学科、健康福祉学科、(社会福祉)コース、医療事務・秘書コース、介護福祉コース)の2学科、3コースを抱え充実した教育プログラムを誇る淑徳大学短期大学部において、多くの学生の皆さんが受講する宗教の講義を担当し、また同内で『ブツダがせんせい』をご活用いただいている講師の名和清隆先生にお話を伺いつつ、実際に講義で『ブツダがせんせい』に触れているこども学科の学生の皆さんにも加わっていただき、今後の夢や希望を伺いつつお話をお聞きしました。

を音読しました。仏教の教えは、頭で理解するだけでなく、心で理解することが大切だと思っています。音読は「心による理解」の助けになると思っています。本書はこども向けとのことでありますが、大学生に対しても十分に使用できる教材であると感じました。また、平易に表現された標語とともに、経典の引用が併記されているので、教える立場としては助かります。

若者だけとは限りませんが、「宗教」に対する拒絶反応を持っている人が少なからずいるように感じます。地域文化として、また先祖祭祀としての「寺」は拒まないのですが、仏教の「教え」に関してはあまり興味が向かない、あるいは拒絶してしまうのです。

普段の授業においても、仏教の教えが生活に役立つのだというのを伝えていくつもりではいるのですが、学生の耳にはなかなか届かないのが実情です。『ブツダがせんせい』は、「とりあえずページをめくってみようかな」という気にさせる配慮が随

そにありますが、それは興味を引きそうです。さて、淑徳大学短期大学部では、少子化が進む現代においてこどもたちを導く立場の教育(保育)者を育てる場所として、意識して取り組んでいること等はありませんか。

学生の反応は非常に良いと思います。イラストがかわいいこともあり、興味を抱いたようです。講義では、学生と一緒に標語

ありがとうございます。現在までに国内のさまざまな場所で活用されている『ブツダがせんせい』ですが、教育現場での今後の活用についてどのようにお考えですか。

イラストが非常にかわいいですし、平易な文章で書かれているので、地域に住む小学生にも目にしてもらいたいと思います。私の寺(埼玉県・浄土宗浄念寺)は、偶然にも小学校の通学路にあたりますので、寺の掲示板に拡大・カラーコピーしたものを掲示し、より多くの子供たちに直接見てもらいたいと思います。

学祖 長谷川良信先生は理想の人間像として、「解かりの人」「ゆとりの人」「たよりの人」という『三りの人』を挙げています。



この中で「たよりの人」とは、私は大丈夫、み仏がついていると自信の持てる人、信仰によって生かされている人であり、本学の学生に望むところは一日も早く信仰の確立および、その育成にあると明言されています。

本書こども学科においては、こうした学祖の思いを汲みながら、



名和 清隆 なわ・きよたか

●1972年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、大正大学宗教学博士後期課程満期退学。現在、淑徳大学、大正大学、亜細亜大学非常勤講師。浄土宗総合研究所研究員、埼玉県桶川市浄念寺副住職。

先述しましたが、仏教の教えは、頭で理解するだけでなく、心なるほど。ありがとうございます。では最後に、今後の公益財団法人仏教伝道協会の活動に期待することは何ですか。

どのような時代でも変わることのない幼児教育・保育の本質と原理をしっかりと学び修得します。社会生活上困難に直面しているこどもや障がいを抱えるこどもなどさまざまな生活・育成環境にあるこどもたちに対し、一人ひとりの個を大切に、その子らしく生きていけるようサポートできる保育者を養成します。

つまり常にこどもと共にあり、こどもと共に成長できる人材こそが本学のめざす保育者像であり、これらの理念が伝承され次の世代のこどもたちへ繋げていけるように取り組んでいます。

で理解することが大切であり、このためには、こどもの頃から繰り返し仏教に触れる機会を作ることが大切だと思います。家庭、寺、幼稚園、学校それぞれで活用できるような、映像資料を含めたこども向け資料をより一層充実していただくことを望みます。

ありがとうございます。では、学生の皆さまにお聞きしますが、まずは、こども学科での学びを活かして、将来どのような先生(教育者)になりたいですか。

A こどもたちが遊びながらすべて、のびのびと成長できるように、そんな先生になりたいです。

B こどもたち一人ひとりをしっかり見られる先生になりたいです。幼い時に友人を亡くした経験から、もつとあの時何か助けてあげられたのでは...という思いがあったので、些細な変化にも気づけるような保育者になれたらと思います。

C 実習先でお世話になった先生のように、こどもたちの自主性を尊重できるような、何をするべきか気付けるような指導ができるようになります。例えばただ単に「静かに!」と直接的に伝

えるのではなく、こどもたち自身が「静かにしなければいけない」と思える言葉を投げかけたりできたらと思います。

D こどもたちの事を第一に考えられる、マニュアルばかりに囚われない先生になりたいです。

E こどもたち一人ひとりを理解して、毎日「保育園に行きたい!」と言ってもらえるような、いつでもこども目線で居られるような先生になりたいです。

F 保護者との関係も大切にしながら、季節の遊びを大切にしつつ、遊びながら自然に触れられるような環境を与えてあげられればと思います。日本に限らず色々な国のこどもたちに関わってみたいですね。

淑徳大学短期大学部で学んで良かったなと思える点がありますか。

A 名和先生に出逢えたことも勿論ですが(一同満面の笑みを浮かべる)、オープンキャンパスなどで事前に授業体験をして、他大学に比べて実践的な内容が多く魅力を感じました。また「宗教」は他の大学では余り学ぶ機会がないと思いますが、実際に学んでみると自分の視野が広が

り、日々の行動を改めるなど、自分自身にも気付きがありました。

B 保育士と幼稚園教諭以外のこども関係の資格も取得可能であることや、福祉関係の内容も充実しているので、色々な側面から教育を学ぶことが出来ていると思います。

C 他校に進学した友人たちとも度々話す機会がありますが、私たちの学校は歴史も長く、時間の使い方に無駄がなくて、とても有効的だと感じますね。

D 名和先生の宗教のクラスが楽しいです!特に元から宗教に興味があったわけではありませんが、仏教の歴史的な部分も学べるのが勉強になりますね。授業の中で、先生が「自身の経験を話されていました」「自分では分かっていても実際には出来ていない」「ことって本当に多いと思います。(一同うなづく)」

E 私は、実習指導のY先生も好きです。子供たちに全て指示をするのではなく道筋を付けてあげて、子供たち自身で考えられる環境を作ってくれます。

F Y先生は、生徒に対する愛がある先生です。常に新しい考え方を示してくれるので、いつも新しいことを学ぶことが出来

ます。名和先生の授業で使った『ブツダがせんせい』の本を体現しているような先生です(笑)。宗教のクラス自体も意外と悪くないって思います(笑)。今まで宗教には、こわいイメージがありました。海外に行くとき自分の宗教は何かを聞かれることも多いですし、この学校に進学して宗教が身近に感じられるようになりました。

授業で『ブツダがせんせい』を読んでみていかがでしたか。また今後、実際に自分が子供たちにに向けて使うならば、どのような本があれば良いと思いますか。

A 絵が可愛らしくて見やすい!
B 本を拡大コピーして使いたい!
C 右のページを拡大して子供たちに見せながら、左のページを先生が読む形ならすぐに活用できますよね。

D 是非試してみたいよね!(一同大きくうなづく)
E 仏教徒じゃない人にも是非教えてあげたいって思いました。

F こういう作りの本だと絵も多くて、こどもだけでなく大人でも読みやすいですね。

A 『ブツダがせんせい』も良いけれど、絵本みたいに文字が少なく、子供たち自身で読めるものがあると良いなと思います。

B カラフルな物は子供たちも大好きなので、色が沢山使われている本が良いですね。

* * * * *

名和先生の熱意とこども学科の皆さんの夢や希望に溢れるお話を伺いつつエネルギーをいただいた編著者は、同じく『ブツダがせんせい』を活用して下さっている淑徳幼稚園にもお邪魔





し、園児の皆さんの様子を拝見しました。

淑徳幼稚園の朝は、全ての園児の皆さん、先生がたが集まる朝礼から始まります。朝礼は、先生の伴奏に合わせて、園児さんによる献灯・献花に始まり、般若心経をお唱えします。その後、菊地悦子園長(以下菊地園長)によるお話の際に『ブッダがせんせい』が登場し、園児の皆さんへ向

け様ざまな問いかけがなされます。今日のお話は「ゴータマ・ブッダはみんなの先生(16ページ)」。ブッダは、正しく生きるために「わるいことはしない。よいことをたくさんして、心をきれいにしよう。(17ページ)」と仰られたことを説明し、「わるいこと」ってなに？(28ページ)を丁寧に説明した上で、子供たちに「してはいけないこと」を問う菊地園長。子

供たちは目を輝かせながら、その問いかけに元気よく手を挙げて応えます。中でも多かった意見は、「人の悪口を言うこと」や「悪い言葉を使うこと」、「怒ること」などでした。

朝礼を終えた園児の皆さんは各教室へ戻り、今度は担任の先生と一緒に「心をきれいにするほうほう(9ページ)」を確認していきます。先生より、「それは「わるいことをしない」ことですね」と説明されると、一斉

に「はーい」と元気の良い返事が返ってきます。そして更に朝礼でお話のあった内容を菊地園長と一緒に復習します。「わるいこと」って何だったかな？と問われると、元気に手を挙げて応える園児たち。悪い言葉の例を次々と挙げるなど、自分たちの言葉でしっかりと学びとつている様子が見受けられました。

淑徳大学短期大学部および淑徳幼稚園を訪れてみて最も驚かされたことは、皆さんが大変気持ちの良い挨拶をしてくださることでした。最近では防犯上の理由から知らない人には挨拶をしないなど様ざまな考え方が世の中になりましたが、キャンパスのどこへ行つても学生さんから、清々しい「こんにちは」の挨拶、幼稚園でも園児の皆さん、先生がたが、礼儀正しく元気

な挨拶で迎えてくださいました。『ブッダがせんせい』にも「清らかな心にはたのしみや喜びがつきましたがい、汚れた心には苦しみがかりがつきました(9ページ)」という言葉がある通り、清々しい挨拶は人を豊かな気持ちにさせてくれます。「乱暴なことを使わない」ことは、決して難しい事ではなく、今日からでも出来ることです。淑徳幼稚園では、今年度から更に『ブッダがせんせい』を活用して、先生が毎月交代でお話することになつていくそうです。先生がたの手作り紙芝居のような教材を数枚ずつ園児の皆さんに見せながら進めていくそうです、益々今後の学びが広がる予感です。

淑徳大学短期大学部の授業でも、名和先生がご自宅での小学生のお嬢さんとの会話をそのまま例に挙げ、世の中には「自分

頭では分かっているけれども実際には出来ない」ことが沢山存在している、だからこそ「心で理解する」ために、こどもの頃から繰り返し仏教の教えに触れることが大切であることを説明してくださいました。

そのような中でも、未来を担う子供たちは、日々大人たちから大きな影響を受け成長していきます。この度は、「心を育てる」立場にある教育者の皆さんとそなたまごの皆さん、そして今まさに世の中の様ざまなことを学び始めた園児の皆さんとお会いする機会を与えていただき大変感謝するとともに、『ブッダがせんせい』の活用の術も知ることが出来ました。



菊地 悦子 きくち・えつこ

●学校法人 大乘淑徳学園理事
事・淑徳幼稚園園長／社会福祉法人 マハヤナ学園 理事長／浄土宗 龍澤山大蔵寺 僧侶

『ブッダがせんせい』は 現在好評発売中です

◆ご購入は、公益財団法人仏教伝道協会
公式サイトからどうぞ！
公式サイト <http://www.bdk.or.jp/>

※その他書籍に関するお問い合わせは、
公益財団法人 仏教伝道協会 (出版事業部：
03-3455-5853)までお願いします。

1 出版事業

01 Activity 第1回「こころの絵本大賞」受賞作品発表

読み聞かせを通じて、子どもたちに「こころ」の大切さを伝えたいという願いのもと、第1回「こころの絵本大賞」【協賛：鈴木出版(株)、後援：毎日新聞社、(公社)日本仏教保育協会、(公財)全国青少年教化協議会】を創設しました。第1回目となる募集には、幅広い年齢層から、総計159作品の応募がありました。NHK(Eテレ)「おかあさんといっしょ」で、お馴染みの絵本作家の藤本とみこさん等による厳正な審査の結果、大賞1作品、優秀賞3作品、佳作5作品が決定しました。



『ぼくのおまいりがながーいわけ』



「こころの絵本大賞」大賞受賞者 村田夕海子氏

多数の作品の中から大賞に選ばれたのは、村田夕海子さんの『ぼくのおまいりがながーいわけ』です。新し

く生まれる「いのち」を大切にしたいという反面、自分も大事にしてほしいという、二つの思いに揺れる子ども心をユーモラスに描いた作品です。作者の村田さんは、図書館で働きながら絵本を描いているおかあさんです。

大賞作品には50万円の賞金が贈呈され、平成29(2017)年3月に、仏教伝道協会より出版させていただきました。

※「こころの絵本大賞」に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。

(<http://www.bdk.or.jp>)

〈平成28(2016)年の『仏教聖典』頒布状況〉1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数	
国内	ホテル(新規)	43	3,991	
	ホテル(補充)	298	35,050	
	病院(新規)	3	35	
	病院(補充)	2	40	
	学校(販売)	9		11,642
	学校(寄贈)	246	43,541	
	寺院(販売)			2,990
	寺院(寄贈)		502	
	一般他販売			733
	書店 寄贈		1,467	1,383
国内頒布数計		84,626	16,748	
海外	海外協力機関		40,433	
	ホテル	30	3,358	
	その他	27	1,302	
海外頒布数計		45,093	0	
総計		129,719	16,748	
総計			146,467	

チベット語『仏教聖典』改訂
翻訳者 クンチョク先生(左)
ゴンタ先生(右)



国内外のホテルへの『仏教聖典』の頒布は、国内補充寄贈を中心に36,523冊を寄贈しました。平成28(2016)年の訪日外客数は、過去最高の2,404万人を記録し、平成29(2017)年は更に多くの旅行者が日本を訪れることが予測されます。日本の「おもてなしの心」を伝える質の高いホスピタリティの一助として、これからも『仏教聖典』の活躍の場が広がることを願っています。

5年目を迎えた仏教系学校、保育施設等への頒布活動は、今年度は246校に43,541冊を寄贈しました。これで寄贈開始からの累計寄贈数は約28万9千冊に達し、全国の仏教系高校・大学の約67%、仏教系保育施設の約25%に寄贈したことになります。

また、『仏教聖典』の解説書である『さとのりの知恵を読むー仏教聖典副読本ー』の寄贈・頒布も開始しました。仏教の基礎が学べるよう、現代人向けに易しくコンパクトに編集され、多くの学校で採用されています。



仏教聖典編集委員会 (竹村牧男新委員長：前列中央 前田専學前委員長：前列右から2番目)

02 Activity 『仏教聖典』頒布の今

平成28(2016)年度の頒布状況等

す。今年度は76校に23,527冊を寄贈しました。

その他『ポーランド語仏教聖典』『チベット語仏教聖典』『ミャンマー語仏教聖典』の改訂版を発刊し、聖典

の現代語化をすすめました。また仏教聖典編集委員会では、前田専學先生に代わり、竹村牧男先生(東洋大学学長)が委員長に選任されました。

『仏教聖典』を訪ねて



宗教を越え教育現場でも活用される『仏教聖典』

◎取材協力=桜美林大学 准教授 都馬 バイカル先生
桜美林学園 チャプレン 土橋 敏良先生
桜美林学園広報室

◎編集・撮影=(公財) 仏教伝道協会 江口 郁
◎場所=桜美林大学 (東京都・町田市)



特別インタビュー

都馬 バイカル 先生

(桜美林大学 准教授)

土橋 敏良 先生

(桜美林学園 チャプレン)

◎桜美林大学は、昭和41(1966)年に設置され、リベラルアーツ学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群、芸術文化学群、グローバル・コミュニケーション学群の5学群、更に大学院には、国際学研究科、経営学研究科、言語教育研究科、心理学研究科、大学アドミニストレーション研究科(通学課程・通信教育課程)、老年学研究科の7研究科が設置され、在籍学生数約9,000名(2016年現在)を超える総合大学です。そして一般的には、日本屈指のキリスト教系の大学として知られていますが、そこでなぜ『仏教聖典』が使用されているのか、キリスト教と仏教とは相容れるものなのか、桜美林大学を代表する両氏に本音をお聞きしました。

平成3(1991)年に、初めて私費留学生として来日(長野県諏訪市)し、日本語学校に通っていました。その当時、ホテルで客室係としてアルバイトをしていたときにホテルの客室で『仏教聖典』に出会い、非常に興味を持ちました。というのが、私は当初、日本には『宗教』はないものだとして認識していました。当時の中国では、社会主義国ですから一般的にいう『宗教』の教育とは、ほぼ無縁で、宗教に対する否定的な側面ばかりを教えられてきました。宗教は、人びとの心を麻痺させる麻薬のようなものだ

その後、平成8(1996)年、当時のモンゴル国の文部大臣であったエンフバヤル氏(後の同国大統領で『仏教聖典』モンゴル語版の翻訳者でもある)に出会い、その際に『仏教聖典』モンゴル語版の翻訳にあたって、仏教用語などについて少し意見交換をしたことがありますね。

そして私が東洋大学で学んでいたときに、金岡秀友先生(1927-2009・東洋大学名誉教授、仏教学者)にお会いした際に、『仏教聖典』の中にインド・中国については記述があるが、

まずは都馬バイカル先生にお伺いします。現在『仏教聖典』を自身の授業で、ご活用いただいていますか、そもその出会いには?

仏教伝道協会は、長年『仏教聖典』の頒布を主軸事業のひとつと位置づけ出版事業の中心として継続的な活動を行ってきました。近年はホテルなどの宿泊施設はもとより、寺院、医療施設などに加え、教育機関でも教材として使用されるなど、様々な活用がなされています。

今回は、この『仏教聖典』を授業の中で、ご活用いただいている桜美林大学(三谷高康学長)准教授の都馬バイカル先生および学園チャプレンの土橋敏良先生にお話を伺うべく、東京都町田市にある広大なキャンパスを訪問させていただきました。

といわれていましたから、日本は先進国ですので、当然そういったものはないのだと思いついていましたね。ですが、実際に日本で生活してみると宗教的な行事や場所も多く非常に驚きました。

モンゴルについても触れたら良いのでは、と助言をいただいたことで、どうしたら良いかなと考えるようになりました。

では、どのような形で、またなぜ『仏教聖典』を授業で活用しようと思われたのですか。

私は「モンゴルの歴史と文化」という授業を担当しています

が、90分間の授業で、私だけが話し続けるのではなく、学生の皆さんが体験・参加できるような場にしたと思うています。例えば、各国のお経を音声で聞かせたり、映像を見せたり、実際に『仏教聖典』を手にとつてもらったりしています。本に触れてみるだけで良いのです。仏教の聖典はこういうものなのだと思います。思ってもらっただけで良いと思つて

います。そういった体験は一生忘れませんからね。

仏教の経典は沢山ありますから、全てを並べて説明しようと思つても限界がありますし、一般の方がたには難しすぎますが、キリスト教の『聖書』と同じように、この1冊だけあれば仏教のことがわかると言えるような存在のものがあるということをお話してあげたいですね。

一般的に本学は「キリスト教の大学」という認識をお持ちの方も多いと思いますが、私たちが目指しているのは「キリスト教の精神」によって国際人を養成することです。色んな文化があることを受容していける人間にならなければいけません。あれもダメ、これもダメと互いに争っているだけでは、真の国際人にはなれません。その為には、あらゆる宗教や考え方を身につけなければいけないのです。私の授業では、教会、モスク、寺院、神社など様々な宗教施設に学生の皆さんを連れて行き、事前に基本的なことを学んだ上で実際にどのようなものなのかを体験してもらっています。

実際に貴学にお邪魔して気がつきましたが、留学生の姿も多数

見受けられるように思います。様々な背景を持つ学生の皆さんを指導する上でも『仏教聖典』は役立つのでしょうか。

例えば一部のイスラム教徒の方がたは、そもそも仏教を「宗教」だと思つていませんが、その他の宗教を信仰する人からすると大変驚きますよね。では、なぜ彼らがそのような考え方に至るのかを知るためには、まずはその方がたの背景にあるものを知る必要がありますよね。嫌いだから、合わないから即排除するという考え方は、本学の教育方針には合いません。ですから様々なことが世界には存在する、ということをお話の皆さんには、まず理解した上で判断してほしいと願っています。

なり神様、仏様といわれても納得できないということはよくあります。私の個人的見解では、キリスト教は神を信じることで、仏教は修行すること、なのかなと思ひますので、いきなりそれを理解するのは難しいことですが、「宗教入門」としても『仏教聖典』は非常に良い存在だと言えますね。

この世の中は共存の社会です。考え方の違う人たちと、いかに理解し合つていくのか、出来るだけ客観的な立場で情報を伝えるのが大学の教員の役目だと思つていますから、そういう意味で『仏教聖典』は大変役に立っています。特に社会主義国から来ている学生の皆さんには、入門的存在で、とても良いと思います。そういった国から留学している学生にしてみれば、いき

近代では、宗教の本質を知らずに、または故意に政治的に利用して、互いに殺し合つたりしている社会が存在します。ですから、それぞれの宗教がそれぞれの立場で、その役割を果たしたら良いのだと思います。これを無理やり政治的に利用するということが、これが問題なのです。よくニュースなどで皆さんも耳にしたことがあると思いますが、イスラム教で「ジハード（聖戦）」という言葉が使われます。本来の意味は、内なる自己との戦いであつて、誰かと戦うということではありません。「宗教」と言う名の下、私たちはどこまで自身の欲望をコントロールできるのか、そこが重要だと思ひますね。相手を認めない社会は成り立たないと思うのです。そういった意味でもモンゴルの歴史から共存共栄の術のヒント



を少しでも得ていただければ幸いです。

ありがとうございます。相互理解の上で全てが成り立っているのですよね。では、話は少々変わりますが、土橋敏良先生に伺います。東日本大震災以来、東北大学を中心に、日本版「チャブレン」ともいえる「臨床宗教師」の存在が話題になっていきます。チャブレンである土橋先生が仏教系大学である武蔵野大学で「臨床宗教師」の講座を受講されていると伺いましたが、その理由は？

直接のきっかけになったのは、やはり東日本大震災です。あの時に宗教者として一体何ができるのかを考えたとき、宗教の違いを超えて被災者の皆さんに向き合っていく姿を、各メディアを通じて拝見して、ここから新しい宗教観の芽生えを感じました。あの震災をきっかけに宗教者（特に伝統宗教の教団宗派）同士の大きな歩み寄りが見られ、共同性が育まれたことは、世界広しといえども、特に私たち日本人が持ち合わせている、世界に誇るべき「霊性」であると、つくづく思われました。

バイカル先生もご指摘の通り、その後の「宗教間対立」を生み出す要因となつてしまいました。ですが、日本をゆるがせた「3・11」は、その後「宗教間対話」を生み出す契機となりました。

私自身、今後は、キリスト教の世界だけで学びをすすめていくのではなく、自分の殻を破つて「対話」をしていきたいと思っています。武蔵野大学さんが私のような者を学びの輪の中に引き入れていただいたことに大変感謝しています。だめもとで応募させていただいたので、本当に良い機会だと思っています。

社会的活動に対する前向きな取り組みに大きなエネルギーを感じましたし、講師のケネス田中先生（武蔵野大学教授、日系三世）からも積極的な意識改革をしようという思いを感じ取るのができたので、宗教や国籍の違いを超えて、向かうところは同じなのでは、と改めて感じました。

キリスト教では、正義とは神の義、弱い立場の者を虐げたり搾取したりしてはならないことだといわれています。ミレーの絵画『落ち穂拾い』のように、全ての麦を収穫せず、後から来る貧しい人たちのために採り尽く

さずにとつておく、義とは、そういう考え方だと思えます。いわゆる共存共栄ですね。十字軍の歴史から始まり、現在までに神の名において戦争や侵略が繰り返されてしまっています。宗教と国家と結びつく際に政治が癒着すると必ずそういったことが起こっていますよね。

なるほど。イスラム教の「聖戦」にしても、キリスト教の「正義」にしても、私たちは本来の意味と違った受け取り方をしているのですね。仏教を含めた三つの宗教の根底に共存共栄の教えが流れている事に深い感動を覚えました。

では、お二方にお聞きします。桜美林大学は日本有数のキリスト教系の大学ですが、様々な国からの学生も増える近年、他宗教への理解も含め大学としての取り組み等がありますか。

都馬 まずは、私たち教員が全員キリスト教徒である訳ではないのです（笑）。繰り返しになりますが、私たちの大学は、キリスト教精神で教育を行っているのであつて、キリスト教徒を養成する目的の場所ではないのです。近代は西洋の立場から歴史をみる

ことが多くなつてしまつて、アジア人の立場から歴史をみる、という視点が薄れてきている気がします。国際人として以前に日本人、アジア人としての意識をしつかりと育てることが必要だと思えます。急に国際人を！といってもそれは不可能な話です。まずは自分の生まれ育つた国のことをよく知り、自分のルーツを理解することが国際人への第一歩だと思っています。

土橋 そうですね。本学の教育目標にもある通り、「キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成すること」を目的としています。国際化という意味では、本学には、様々な国籍・信仰の皆さんが通つていきますから、チャペルの一角には、イスラム教徒の皆さんも利用いただける祈祷室という礼拝スペースも設けていますので、自由に活用いただいています。

最後に、今後の仏教伝道協会の活動や仏教、お坊さんに期待することなどはありますか。

都馬 現在、一般的に世界の三大宗教といわれている、キリスト教、イスラム教、仏教の中で、

仏教は多神教といわれていますから、その立場を大いに活かして、宗教間の「対話」を行う場を提供していただければと思つています。単純に仏教を伝えるだけでなく、他大学、他国籍の方々と「対話」を出来れば更に素晴らしいことだと思いますから、仏教伝道協会さんには、皆さんを集めてそういった機会を作つていただけたら素晴らしいですね。今、宗教は、対立ではなく、「対話」をしなければいけないと思つています。後世のこともしつかりと考えていかねばなりませんから、宗教ができることを考えたんですし、仏教伝道協会さんには、そのような立場での活動を期待しています。

土橋 そうですね。宗教ができることを考える上で思いましたが、やはり同じ宗教者同士、相通じるものがあると感じています。それらを、今を生きる皆さんに伝えていけたらと思います。

私の祖父母は仏教を信仰しておりましたので、亡くなった時には、仏式のお葬式を執り行ったのですが、キリスト教式のお葬式との違いに驚かされました。これはあくまで私の経験ですので、お坊さんによつてだと思



都馬 バイカル とば・ばいかる

●昭和38(1963)年、中国内モンゴル自治区生まれ。内モンゴル師範大学大学院修士課程(歴史専攻)、東洋大学大学院博士課程(インド哲学・仏教学専攻)を終了。文学博士。現在、桜美林大学リベラルアーツ学群准教授。主な担当科目 モンゴルの歴史と文化、遊牧文化論、日本宗教等。東洋大学東洋学研究所研究員。日本モンゴル学会会員。



土橋 敏良 どばし・としよし

●昭和36(1961)年生まれ。明治学院大学社会学部卒業、立教大学大学院キリスト教学研究科、桜美林大学大学院国際学研究所修了。現在、日本基督教団正教師(牧師)、臨床宗教師、桜美林学園チャプレン、全国大学チャプレン会理事。

ますが、お葬式の際に、お経をあげたら、参列者への挨拶も早々に直ぐに立ち去ってしまったので、法話というか一言分り易い言葉で、参列者の方に、仏教の死生観や死後のことについて話があると、場も和みますし、慰めになるのではないかと思います。キリスト教式では、参列して下さった全ての皆さんへ向けて式辞を述べます。その際には、故人の生い立ちからその人の生涯を事細かにお話ししますので、その人の生き様や人となります。ですから牧師も内容を考えるのに大変な労力を費やしますが(微笑みながら)参列して下さった方がたの心を和ませ、癒やすことが出来ます。仏式でも、このような、参列者と宗教

者が繋がる場があると更にお互いの距離が縮まるのでは、と感じた出来事でした。そして「対話」といえば、最近では、仏教者とキリスト者の対談形式の本が多く出版されているようで、実際に私も数冊読んでいます。ホテルの引き出しには『新約聖書』と『仏教聖典』が並んで置いてありますが、置いてあるだけでは「対話」にはなりませんよ。その間に互いを結びつけるようなものがひとつあれば、非常に面白いと思いますし、初めて聖書や聖典を手取る人にとっては、とても魅力的な存在になると思います。ギデオンの協会と日本聖書協会と仏教伝道協会がタイアップして入門的な対話本を出したりしても良いですよ。そういういったことで更に新しい扉を

開いていきたいという思いがあります。いずれにせよ、様々な垣根を超えて長年活動されている仏教伝道協会さんのような存在は重要ですから、是非とも今後の活動に期待させていただけたいですね。

この度は、桜美林大学という国内有数のキリスト教系の大学を訪ねさせていただけというところで、当初は緊張もありましたが、バイカル先生、土橋先生のお二人にお話を伺う機会に恵まれ、また、お二人の柔和な人柄にも助けられ、大変有意義な時間を過ごすことができました。土橋先生によるチャペルアワーにも出席させていただき、聖書に触れる機会も得られ、お話の中で、「放蕩息子」のたとえを用いて、赦すことの大切さを説いてくださいました。他人と自分を比較し、批判して争うことではなく、赦し合い、対話をする事で、今この瞬間をしつかりと生きることの重要性を学ぶ。キリスト教と仏教の共通点を垣間見た気がします。その後バイカル先生の授業を聴講させていただき、学生の皆さんが興味深そうに『仏教聖典』を手にとり、じっくりと見入る姿を目の当たりにしました。また授業の終盤では、留学生の皆さんが、自らの国の宗教事情を語り、授業後は、母国語に翻訳された『仏教聖典』を持ち帰っていく姿も見受けられました。『仏教聖典』という一冊の本がもたらす御縁で、このような素晴らしい機会を得られ、また桜美林大学の創設者である清

水安三氏が掲げた「自分のため」だけではなく、「誰かのため」に学ぶ大切さを重視し、たくさんの人を支えるためには、何を学ぶ必要があるのかを自ら考える教育方針や「真の国際人を育てる」という、ぶれない姿勢にも大変感銘を受けました。

仏教伝道協会では、今後も教育現場における『仏教聖典』の活用を推進するとともに、宗教や国籍を超えた様々な考え方を持つ皆さんに親しんでいただける書籍づくりを目指してまいります。

◆『仏教聖典』やその他出版事業に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。
(<http://www.bdk.or.jp>)

03 Activity

第3回「一日一訓カレンダー
フォトコンテスト」

写真展「第2回一日一訓カレンダー
フォトコンテスト」開催



「第2回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」写真展（於 築地本願寺）

仏教伝道協会設立50周年記念として、平成26（2014）年に始まった『一日一訓カレンダー』フォトコンテストは、3回目の開催となりました。

今回は、427件1,172枚の作品が集まり、平成28（2016）年9月に審査会を開催、表紙を含む32枚を選定しました。入選者には賞状と賞金が贈られ、入選作品は『日本カメラ』2016年12月号に掲載されました。毎回応募総数は1,000枚を超え、写真を通じて、多くの方に仏教に親んでいただく機会となっているようです。

また昨年に続き、フォトコンテストの入選作品をご紹介する写真展を2016年7月9（土）から24日（日）までの2週間、浄土真宗本願寺派築地本願寺（東京都中央区）にて開催しました。期間中に約10,000人の方が訪れ、当協会の講座案内や刊行物を配布させていただきました。来場者か



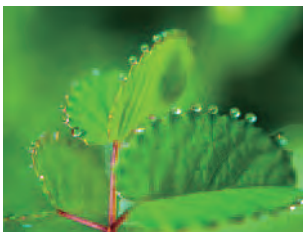
「正しい努力—正精進」



「守り育て救い取るのが仏の心」



「貨幣の雨を降らすとも欲望の満足されることはない」



「人生は朝露の如し」



「摂取不捨の光明は念ずる所を照らすなり」



「散る桜 残る桜も 散る桜」

らは「たった一枚の写真、たった一言の教えで、明日が明るくなるということを体験いたしました」「仏教の教えのメッセージと写真をリンクさせたこの企画は、目からイメージがわき、更にその教えが心にひびきました」等、様々な意見を

いただきました。尚、第3回入選作品を掲載した平成30（2018）年のカレンダーは、平成29（2017）年6月に刊行を予定しており、仏教伝道協会公式サイト（<http://www.bdk.or.jp>）でも各作品をご覧いただけます。

BDK 「英訳大蔵経」 事業報告

新編集委員長にケネス田中氏就任



英訳大蔵経編集委員会（ケネス田中新委員長：前列左から3番目、前田専學前委員長、前列左から4番目）



チベット文献図書館（在インド・ダラムサラ）に BDK 「英訳大蔵経」を寄贈（館長 Lhakdor 師）

英訳大蔵経編集委員会は、平成28（2016）年6月に、前田専學先生に代わり、ケネス田中先生（武蔵野大学教授）が委員長に就任されました。前田前委員長には、平成8（1996）年の就任以来、編集責任者として42冊の英訳大蔵経の刊行に携わっていただきました。前田先生のご尽力により英訳大蔵経事業が大きく前進したことに、改めて御礼申し上げます。

ケネス田中新委員長には、海外の仏教学者との幅広い人脈を活かした英訳事業を推進していただいています。新委員長のもと、まずは第一期翻訳完了を、スピード感をもって目指してまいります。2016年の出版は、仏教經典の中で最も古いものの一つで、釈尊によって実際に説かれたと思われる教えが数多く含まれる『長阿含経（1）』『長阿含経（2）』（全3冊予定）に加え、はるか未来に弥勒菩薩が龍華樹の下で成仏することを説いた『弥勒下生成仏経』と菩薩を守る

べき戒律をテーマとする「文殊師利問経」を収めた『弥勒下生経・文殊問経』の3冊を刊行しました。

※ 『仏教聖典』やBDK「英訳大蔵経」をはじめとする出版事業に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。
(<http://www.bdk.or.jp>)



BDK 「英訳大蔵経」 シリーズ

2 助成・表彰事業

平成29(2016)年度BDK Fellowship

「外国人留学生奨学金」制度のご紹介

「外国人留学生奨学金」制度は、海外から来日し仏教研究をする外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を、学問を通じて、ひろく世界に伝えてい

ただきたいとの願いから平成3(1991)年に設立されました。第27回目となる平成29(2017)年度「外国人留学生奨学金」受給者は左記3名(アルファベット順)を選出しました。

新たな3名の受給者の方がたにも期待を込めつつ、昨年度の奨学生として既に受給を終了されている方がたからの報告が届いていますので、ご紹介します。

●Dörte Kamariid (ドルテ・カマリドゥ) 氏

国 籍：ドイツ

所属機関：国際仏教学大学院大学

指導教授：斎藤明教授

研究内容：近年公刊されたカダム派全書に含まれる、後伝期チベットに中観ブラスンギカ

派の導入を基礎つけたニマタク(1055)作の『中論注釈』を分析・考察

●Juti Rakkit Shraman (ジュティ・ラキット・シュラマン) 氏

国 籍：バングラデシュ

所属機関：東京大学大学院人文社会系研究科

指導教授：養輪顕量教授

研究内容：初期經典のイティブツカキFutatakaの中に見られる如来の語の分析

●Katarzyna Marciniak (カタジナ・マルチニャク) 氏

国 籍：ポーランド

所属機関：創価大学・国際仏教学高等研究所

指導教授：辛嶋静志教授

研究内容：最古の写本二本(SaとNa)に基づいて、『マハーヴァストゥ』の新校訂本を作成予定

平成28(2016)年度 外国人留学生奨学金 受給者

- 1 当協会の奨学金に応募したきっかけ
- 2 奨学金を受給して最も良かったと思うこと
- 3 奨学金受給後の展望

◇Emanuele Davide Giglio (エマヌエーレ・ダヴィデ・ジッリオ) 氏

■ 国 籍：イタリア

■ 所属機関：東京大学大学院 人文社会系研究科 アジア文化研究専攻

インド哲学・仏教学専門分野 博士課程

■ 指導教授：蓑輪顕量教授

■ 研究内容：日蓮撰『諸法実相鈔』（真蹟非現存および真偽未決）に関する

方法的・書誌学的・思想史的研究

1 私は、日蓮(1222-

1282)の真作かどうか

分からず、室町期の後代の

弟子たちに偽作されたので

はないかと疑われる文献を

長年研究してきました。こ

のような文献は、国内外問

わず書誌学的な観点からも

思想史的な観点からも、ま

だ組織的には研究されてい

ないので、それらを確立し、

新しい視点と材料を提供し

たいと思ひ研究を続けてき

ました。修士論文を提出す

る前に書誌学的な発見がで

き、そのお蔭で博士課程に

進むことができましたが、

その後は断片的な手がかり

しか無くなっていました。

何か新しいものを発見する

必要性を感じていながらも

2015年も年末に迫った

頃、初めて結論に導いてく

れるのではないかと確信し

た資料を発見したのです

が、以前受給していた奨学

金の支給終了の時期が近づ

き、博士課程4年目も終わ

りに差し掛かろうとしてい

ました。そのような時に、仏

教伝道協会(BDK)の奨学

金制度を知り、直ぐに応募

2 を決めました。

BDKからいただいた

支援のお蔭で、江戸期前の

写本を解読する術を身につ

け、発見していた資料を詳

しく分析することができま

した。研究に集中できる環

境があったため、3月中旬

に指導教官に博士論文の初

稿を出せるような余裕さえ

手に入れることもでき、日

蓮遺文の研究にインパクト

を与えることが出来ると確

信しているところです。

3 現在、なるべく早く正

式な論文審査に入れるよう



Emanuele Davide Giglio氏(右) 指導教授の蓑輪顕量先生(左)

に励んでいるところです。また今後も引き続き、特殊文献の研究に積極的に貢献できればと考えています。

私の母国であるイタリアやその他海外の大学に、東アジアの仏教文学を学べる大学院が建てられる時がきたら、私の長年の研究も役立つと思っています。将来は、

より多くの海外の人物とも、東アジアの仏教思想に触れ、その奥深さと面白さに触れられる機会を提供出来るような存在になればと思います。また、江戸期前の写本の解読作業がより速く出来るような技術開発にも貢献したいと考えています。

道

◇Katarzyna Marciniak (カタジナ・マルチニャク) 氏

■国 籍：ポーランド

■所属機関：創価大学・国際仏教学高等研究所

■指導教授：辛嶋静志教授

■研究内容：大衆部説出世部(マハーサーンギカ・ローコッタラヴァーダ)の

文献『マハーヴァストゥ』の仏教梵語を、最古の写本二本

(MS Sa, MS Na) を使用し研究予定



Katarzyna Marciniak氏(右)と指導教授の辛嶋静志先生(左)

1 私は、仏教梵語である

『マハーヴァストゥ』の研究に2010年から取り組んできました。日本には、その世界の第一人者の先生方がたがいらつしやるので、是非諸先生がたの指導を受けながら、最古の写本に基づいて、『マハーヴァストゥ』の新校訂本を作成・研究を継続したいと考えていました。BDK奨学金の存在は同じ研究を志す研究員仲間から聞いていましたので、是非応募してみたいと思います、運良く採用されました。

2 BDK奨学生に採用されて最も良かったと思うのは、やはり日本の整った環境で研究に没頭できるということです。そして同時に、

研究生活に加え、日本の様々な生活・文化や人びと

に接する機会も与えていただき大変感謝しています。

3 仏教・サンスクリット

文学の研究を続け、いずれは、私の母国であるポーランドで仏教哲学に興味を抱

いている学生たちの励みとなるような存在になりたいと思つています。現在の研究生活から学んでいることを活かし、今後も研究に励みたいと考えています。



平成28(2016)年度
日本人留学生奨学金受給者紹介

「日本人留学生奨学金制度」は、日本から海外に渡り国際的な視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献する日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24(2012)年に設立しました。

第4回目となる平成28(2016)年度は、平成27(2015)年12月に開催された審査委員会による厳正な審議の結果、下記3名(五十音順に記載)を選出しました。

第4回

平成28(2016)年度

日本人留学生奨学金受給者

- 1 仏教伝道協会の奨学金に応募したきっかけ
- 2 本奨学金を受給して良かったと思うこと、今後の展望
- 3 海外での生活で一番気に入っているところ(または驚いたところ)

◆堀内俊郎(ほりうち・としお)氏

■所属機関：ドイツ・ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所インド学

チベット学研究室

■指導教授：ドルジ・ワンチュク教授

■研究内容：『楞伽經』第2章前半部サンスクリット原典の校訂と思想研究

1 これまで日本で学んだ仏教の叡智を世界に広めたということと共に、日本の喧騒を離れて、海外で研究生活に没頭したいと思ったからです。

2 おかげさまで、所期の通り、研究に集中できる環境が得られたことです。具体的には、共同部屋ですが

研究所内に部屋を与えていただいているので、毎日朝からそこに通い、研究に励むことができいております。また、授業にも多く参加しておりますが、チベット語やサンスクリット語文献の購読の授業に20人ほどが参

加しているのが印象的です。受け入れ教員のドルジ・ワンチュク先生には色々とお世話になっておりますが、先生方、スタッフなど、概して親切にしてくださいっており、感謝しております。

3 ドイツの生活での特徴は、朝が早いことです。私は、朝が早いことです。私の受講している2つの授業が8時15分から始まるのですが、多くの人がすでにその時間帯より前から活動的です。ドイツはヨーロッパの北部に位置しますので特に冬場は日が暮れるのが早いということも一つの理由か

もしれません。このように素晴らしい環境で研究する機会を与えてくださった仏教伝道協会には感謝に堪えません。友人からハンブルクでの生活はどうかと尋ねられた際にはいつも、こちらでは人生最良の時を過ごしていますと答えています。引き続き研鑽に励みます。引続き研鑽に励みます。引続き研鑽に励みます。

◆松岡寛子(まつおか・ひろこ)氏

■所属機関：ドイツ・ライプツィヒ大学インド学・中央アジア学研究所

■指導教授：エリ・フランコ教授

■研究内容：仏教論書における序文の研究

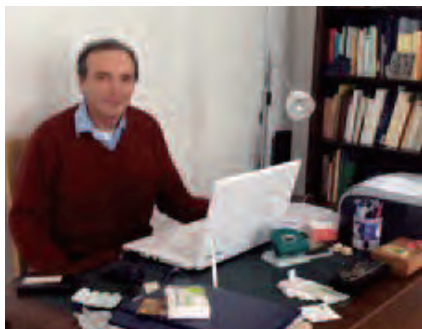
1 私は8世紀インドの中観派論師カマラシーラの『撰真実論積』を研究しています。このテキストで欠

けている箇所がインド仏教最後期11世紀のヤマール著『プラマーナ・ウァールツァイカ・アランカーラ・ニ

バンダ』の梵文写本から復元可能なことを知り、ライプツィヒ大学インド学・中央アジア学研究所エリルフ



堀内俊郎氏(右)と指導教授のDorji Wangchuk先生(左)



松岡寛子氏を指導するEli Flanco先生



松岡寛子氏

2 渡航して10ヶ月、得難
ランコ先生が手掛ける同写
本の校訂プロジェクトへの
関心が高まりました。研究
所に留学したいと考えるな
か、広島大学の恩師である
桂紹隆先生や元奨学生の方
輩方から仏教学術振興を目
的とする奨学金制度を勧
められたことが、応募のき
っかけです。



ライプツィヒ大学



トーマス教会

い経験の連続で、受給して
良かったと感謝する日々で
す。研究所ではプロジェク
ト・ミーティングと仏教テ
クスト演習に参加していま
す。また、ウィーン大学の
『撰真実論釈』セミナーに
テレビ電話で参加していま
す。このほか、『ニバンダ』と
『撰真実論釈』の英訳をフ
ランコ先生の協力のもと進
めています。

3 梵語、藏語、日本語、中
国語文献を豊富に収める研
究所の図書室がお気に入り
です。ミーティングや演習
等もここで行われます。ま
た、ライプツィヒでの日常
生活もとても気に入ってい
ます。11〜12月に催される

クリスマス市場はクリスマ
ス飾りやシュトレンで有
名です。ライプツィヒは音
楽の街でもあり、徒歩圏に
あるゲヴァントハウスや
J・S・バッハが音楽監督

留学成果を発表する予定
です。期間終了後の平成30(2
018)年4月以降はオー
ストリア科学アカデミーア
ジア文化・思想史研究所で
「カマラシーラ・プロジェ
クト」に従事する計画です。
このような展開も今回の留
学なしには決して成し得ま
せんでした。

を務めたトーマス教会でク
ラシック音楽を身近に楽し
むことができます。



クリスマス市場の様子

◆尚、第5回目となる平成29(2017)年度「日
本人留学生奨学金」受給者は、下記2名(五十音
順に記載)に決定しました。

- 西山 亮氏 (現在の所属：龍谷大学
／留学先：ボストン大学)
- 松岡 寛子氏 (現在の所属：京都大学
／留学先：ライプツィヒ大学)

※奨学金制度の詳細、今後の募集等につきましては、
仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
(<http://www.bdk.or.jp>)

第50回 仏教伝道文化賞

文化賞概要と受賞者紹介

仏教伝道文化賞は、国内外を問わず、仏教研究・芸術・伝道等の様々な分野で仏教精神・文化の発展に貢献した方を顕彰するため、昭和42（1967）年に制定、平成24（2012）年からは今後の仏教伝道を通じて文化活動の振興が大いに期待できる方を対象とした沼田奨励賞を新設しています。

第50回の節目を迎えた今回は、仏教伝道文化賞並びに沼田奨励賞を選定するにあたり、国内外の各仏教宗派をはじめ、各研究機関および専門家の方がたに推薦依頼状を送り、推薦をお願いしました。お寄せいただいた推薦状に基づき、平成28（2016）年7月に選定委員会を開催し、厳正な討議を行い、全会一致で受賞者を決定しました。

第50回仏教伝道文化賞贈呈式
石上氏は「ただ勉強がしかなかった。仏教の基本を身に付けたかった」と、学問の道に入ったきっかけを振り返り、「戦後間もない頃で大学はあまり機能していなかったが、

先生方が非常に熱心に指導してくださった。学友は研究とはこんなものだと教えてくれた。ありがたい人ばかり」と、出遇った恩師や多くの学友、研究仲間への深い感謝を示されました。

松下氏は「留学先のベルリンで作曲できずに悩んでいた時、『般若心経』の一節から曲が生まれるなど、仏教に深い縁を感じている。どの宗教にも祈ること、信じること、愛することは共通する。さらに感謝することをもつて、今後も精進していきたい」と話されました。

祝辞では大乘淑徳学園理事長の長谷川匡俊氏が石上氏の学術的な功績に加えて「それを広く一般の多くの方がたにお伝えする、仏教の世界を開いていかれた」と敬意を表され、奈良・法相宗大本山薬師寺の村上太胤管主は、松下氏の音楽活動に「広い世界的な立場での宗教、人間の心を、音楽を通して表現している。仏教伝道の精神が作曲の中にもさらに磨かれていくことを願っています」と期待を寄せられました。



第50回受賞関係者



仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

松下 功 氏
(まつした・いさお)

昭和26（1951）年東京都生まれ。東洋的情緒を持った作品や日本の各種伝統芸能や声明を融合させた仏教精神を感じさせる現代音楽を開拓。



仏教伝道文化賞

石上 善應 氏
(いしがみ・ぜんのう)

昭和4（1929）年北海道生まれ。インド説話及び浄土経典研究の第一人者。長年に亘り、放送・講演・執筆等を通じて幅広く仏教とその文化を伝えた功績。

助成事業 新制度スタート

▶ 仏教伝道協会は、これまで信頼のある団体からの紹介と推薦を条件とした助成金交付を行ってまいりました。この度、多くの個人・団体からの応募を可能にし、より質の高い公益事業へ助成をするため、一般公募制を採ることになりました。下記のように助成区分を設置して応募資格及び選考基準を明確にするなど、これまでの助成金制度を改正しました。

助成区分

A. 団体支援助成：

仏教伝道協会の事業目的に合致し、その団体の行うすべての事業に広く公益性があり、かつ恒久的な活動が必要と認められる団体の事業運営費用への助成。

B. 事業支援助成：

仏教伝道協会の事業目的に合致し、かつ、ある特定の事業活動費用に対する助成。本区分の助成は、単年度もしくは複数年度での申請を認める。

B-1 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

B-2 仏教学術振興活動

B-3 仏教文化財保護活動

C. 沼田仏教講座運営維持・新規開設支援助成：

海外主要大学で開講されている「沼田仏教講座」の運営維持、または新規開設されるものへの支援助成。

応募資格

1. 当財団の公益事業目的を理解、賛同し、国内外を問わず日本文化の基礎となる仏教精神、仏教文化とその学術の振興および啓蒙活動を積極的に展開している個人及び団体であること
2. 申請内容が営利目的でないこと
3. 特定の主義主張の浸透を目的としないこと

選考基準

- (1) 社会的公益性
- (2) 地域貢献度
- (3) 実現性
- (4) 過去の活動実績
- (5) 継続、発展性
- (6) 経費の適正性
- (7) 超宗派性

申請受付期間

毎年10月1日から11月30日まで。

申請手続

1. 助成金の交付を受けようとする個人および団体は、当協会のホームページより本助成金交付要綱と所定の助成金申請書をダウンロードし、事業計画および収支予算等を記入の上、参考資料と共に当財団の事務局に提出。
2. 助成金の申請において、申請しようとする事業が複数年にわたる場合は、申請時にその必要年数、年度ごとの希望申請金額を明記し、各事業年度の事業計画書・収支予算書を提出。
3. 申請書提出に際し、推薦者1名の推薦状が必要。

◎新制度は、平成29(2017)年度分から適用し、申請募集を平成28(2016)年10月1日から12月31日まで実施した結果、従来の約2倍の応募をいただきました。今後も皆さまからの申請をお待ちしています。

※その他、助成金制度の詳細や申請方法につきましては、当協会公式サイトをご確認ください。(http://www.bdk.or.jp)

3

啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

Enlightenment / Support / Buddhism course

01 Activity

第46回実践布教研究会開催 於 法相宗大本山薬師寺

過去の日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶等が自ら体験することによって、聞、思、修一体となった仏道を体験していただきたいという願いから、毎年各本山を会場に開催する研修会が「実践布教研究会」です。

平成28(2016)年の第46回は「布教伝道―玄奘三蔵と鑑真和上に学ぶ」をテーマに、6/1〜6/3の2泊3日の日程で、法相宗大本山薬師寺(奈良県)にて開催し、宗派を超えて僧侶、寺族ら44名が参加し、講話や僧侶同士の討議で学びを深めました。

初日には、念法真教総本山金剛寺(大阪市)と法相宗大本山興福寺(奈良県)を参拝し、念法真教の桶屋良祐教務総長と興福寺の多川俊映貫首の講話を拝聴しました。二日目以降は、玄奘三蔵院のある薬師寺、鑑真和上を開祖にもつ唐招提寺にて、山田法胤管主や西山明彦管長の講話により、「捨身求法の人」である玄奘三蔵と鑑真和上について学びました。

参加者からは「早朝勤行



念法真教 総本山 金剛寺

のあり方を肌で感じていただけようです。

※これまでの開催経過や今後の開催につきましては、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。

<http://www.bdk.or.jp>



薬師寺 管主 村上太胤様下
による講話



第46回参加者(於薬師寺)

Activity 02

「仏教香道講座」開催 於 仏教伝道センタービル

より多くの方に仏教文化と仏教精神に触れて
いただけるよう、「香道」と「仏教」の関係に着
目した講座を開催しました。



香を楽しむ参加者



講師 稲坂良弘氏

今からおよそ1500年
前の飛鳥時代に仏教と共に
日本に伝えられて以来、香
は祈りの場面に欠かせない
ものとなりました。祈る場
所と祈る人の双方を清める
といわれている香は、伝来
当時から現在まで、その姿
を変えず存在し続けていま
す。

道講座」では供香（焚香・
塗香）の原料やその使われ
方などの基本知識から、香
が貴族文化の中でどのよう
に発展していったのか、そ
の後の武家時代における香
の役割など、日本の歴史と
香文化の変遷を、講師の稲
坂良弘氏がわかりやすく解
説してくださいました。

ディアでは「香の伝道師」と
呼ばれている方です。
「お香と線香の違いと
は？」「日常生活で気軽にお
香を楽しむ方法」などの興
味深いお話をささみなが
ら、参加者は貴重な香木を
実際に手にとり、塗香を手
にすり込むなどして香の魅
力を体感。講座の終了予定
時間になっても質問が止ま
らないほど、参加者の方が
たには香と仏教の関係に強
い関心を持っていただけま
した。新たな切り口で仏教
文化と仏教精神に触れられ
る時間でした。

03 Activity

設立50周年記念 「仏教伝道協会記念館」オープン 於 仏教伝道センタービル

平成27(2015)年に設立50周年を迎えたことを記念し、当協会の歴史や活動を紹介する「**仏教伝道協会記念館**」をオープンしました。

当協会には仏教界からはもちろん、国内外を問わず様々な業界から多くの方がお越しになります。そのような皆さまに当協会の活動内容を知っていただくため、平成28(2016)年10月5日に「**仏教伝道協会記念館**」をオープンしました。

「**仏教伝道協会記念館**」に足を踏み入れるとまず目に飛び込んでくるのが、中央のシンボル展示。天井からは発願者・沼田恵範のバナーが吊下がり、訪れる人を出迎え、その下の展示台には恵範が愛用していた品々が並んでいます。カバンや文房具、時計などの日用品や、出張時に常に携帯していた経本や数珠などが使われていた、さらには恵範が仏教伝道を志すきっかけとなった英

文雑誌『ザ・パシフィック・ワールド』の初版本など貴重な資料もあり、恵範の仏教伝道にかけた当時の熱い想いを感じ取ることができます。

動の歴史を振り返るパネル展示、各宗派の情報、当協会所蔵の蔵書も公開しています。今後は展示内容を更に充実させ、様々な企画展や講座を開き、より多くの人びとへ向けて仏教の素晴らしさを発信する場に進化させてまいりますので、是非一度見学にお越しいただければと思います。



発願者・沼田恵範 愛用の品々



04 Activity

寺院に泊まる僧侶と巡る「リアル修行体験の旅」開催

於 天台宗総本山比叡山延暦寺

仏教伝道協会では、これまで過去46年間、毎年僧侶向けに実施してきた実践布教研究会を初めて一般の方向けにアレンジした本格的な修行体験ができる「寺院に泊まる僧侶と巡る『リアル修行体験の旅』」と題したツアーを企画・開催しました。



居士林 所長 宮本祖豊先生と共にお経を唱える参加者

1泊2日【平成28(2016)年10月8日～9日】の短い行程ではありましたが、通常は立ち入ることのできないエリアに滞在し、坐禅の実践や法話を聴講しました。加えて、伝統的な食事作法で味わう精進料理体験や険しい道のりを夜明けまで歩き通す一日回峰行体験など、比叡山延暦寺ならではの厳格な戒律と過酷な修行のエッセンスを体験することができました。



熱心に説明を聞く参加者

滞在中は、携帯電話やスマートフォンなどの通信機器が使用禁止となる環境のなか、居士林(研修道場)の所長を務める宮本祖豊師による法話や質疑応答、千日回峰行を満行した光永圓道大阿闍梨が先導役を務める回峰行体験では、貴重な経験を通して、参加者一人ひとりが自分自身を見つめる機会を得られたようです。悪天候に遭いながらも、夜中の1時頃から朝の8時



回峰行体験のため草鞋の履き方を指導する北嶺大行満大阿闍梨 光永圓道先生

頃まで歩き続けた参加者は疲労困憊でしたが、充足感と達成感に満ちた表情から充実した2日間であったことが伺えます。

※次回の開催については、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。
<http://www.bdk.or.jp/>

05

Activity

「特別坐禅会」開催 於 曹洞宗大本山總持寺

より多くの方に仏教文化と仏教精神に触れていただける機会を提供するため、平成28(2016)年10月30日に坐禅とヨガ、そして精進料理を半日かけて体験する新たな講座を開催しました。

曹洞宗大本山總持寺(横浜市)で開催した「特別坐禅会」は、坐禅会にヨガのワークショップを加え、更に希望者には總持寺伝承の精進料理の昼食も用意するという、たつぷりと半日かけてヨガと仏教に親しんでいたべく内容でした。總持寺でヨガを取り入れたのは初めての試みということでしたが、定員100名を大きく上回る参加申し込みをいただき、早朝からヨガマットを持参した参加者たちが続々と總持寺に集合しました。

ヨガ講師・中島正明氏によるヨガのワークショップで体と心の準備運動、続く花和浩明師による法話では、禅の起源、坐禅や精進料

理について初心者にもわかりやすくお話しいただき、熱心にメモをとる参加者も見受けられました。そして禅堂へ移動して40分の坐禅の後、約70名が精進料理の昼食を楽しみながら、食事の作法や料理に対する心構えなどの解説に耳を傾けました。

参加者はSNSなどで、總持寺の様子や食事などを紹介。それぞれ充実した時間を過ごしていただいたようです。花和師からは「我々もとても勉強になった」とのお言葉をいただきました。今後も協力してあらたな活動を展開できるように尽力してまいります。



精進料理を前に笑顔の参加者



ヨガ講師・中島正明氏の指導によるヨガのワークショップ

06 Activity

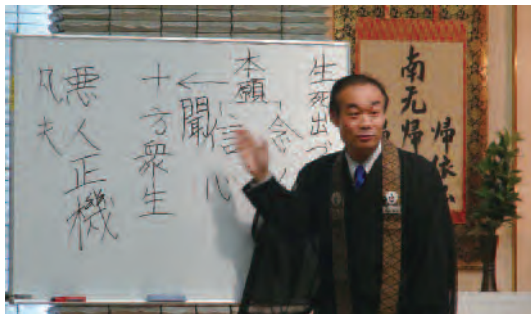
於 仏 教 伝 道 セ ン タ ー ビ ル
「一から学ぶ日本の仏教」 開催



11月講師 千葉公慈師



10月講師 蓑輪顕量師



7月講師 前田壽雄師



4月講師 阿純章師



6月講師 東海林良昌師

新企画 仏教初心者講座
「一から学ぶ日本の仏教」
 がスタート！

これまで当協会では様々な視点から仏教と触れることの出来る講座を開催してきましたが、ここで改めて日本仏教の代表的な各宗派の基本的な教義や宗祖の生涯などを学べる場を提供したく、平成28(2016)年度より仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」をスタートしました。

4月の「天台宗・最澄(講師・阿純章師)」から始ま

平成28(2016)年度開催実績

開催月	テーマ	講師
4月	天台宗・最澄	阿 純章 師 (圓融寺 住職)
5月	真言宗・空海	渡邊 弘範 師 (弘法寺 副住職)
6月	浄土宗・法然	東海林良昌 師 (浄土宗総合研究所 研究員)
7月	浄土真宗・親鸞	前田 壽雄 師 (浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員)
9月	臨濟宗・栄西	松山 大耕 師 (妙心寺退蔵院 副住職)
10月	日蓮宗・日蓮	蓑輪 顕量 師 (東京大学大学院 教授)
11月	曹洞宗・道元	千葉 公慈 師 (宝林寺 住職/駒沢女子大学 主任教授)



5月講師 渡邊弘範師



9月講師 松山大耕師

り、11月の「曹洞宗・道元（講師・千葉公慈師）」まで、毎回お断りの連絡をしなければならぬほど多くの方がたからのお申し込みをいただき、当初の定員である60名に対し、毎回70名を超える方がたのご参加をいただきました。

講義の前半では、各宗派の教義、宗派の歴史、宗祖の生涯、代表的な修行や衣体の紹介などを取り扱った基本講義を行い、後半では、各講師の方がたが自らの信仰・体験に基づくご法話をいただきました。特にご法話には、「心打られました、とても感動しました」、「自

分の宗派のことだけではなく、他宗について知る機会に触れることができて良かった」などのご意見を多くいただくことができました。また、毎回それぞれの担当講師が自ら作成した資料を参加者の方がたに配布し、「資料も分かりやすく、後日見返した時にも役立つものでした」と、好評をいただきました。

※今後の開催内容の詳細については、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。
<http://www.bdk.or.jp/>

07 Activity

各種講座のご案内

仏教伝道協会では事業の目的のひとつに「仏教精神とその文化興隆の為の啓蒙活動」を掲げており、各種講座を主催しています。

▼仏教聖典を

経営に活かす会

経営者の方には人を大切に

人の方がたには人生の道標の一助となるように、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの人が触れていただくため、平成28（2016）年度は前年度に続き、木村清孝師（曹洞宗龍宝寺住職）・逸見道郎師（浄土真宗本願寺派浄土寺



経営に活かす会

住職）の両師を招き、月1回（第3水曜日午後6時〜）開催しました。

▼仏教聖典を

生活に活かす会

宗派にとらわれず、仏教精神を日常生活に活かすことを目的に『仏教聖典』をテキストとした、ユーモア溢れるご講師のお話と和やかな雰囲気の中で仏教精神に触れられる勉強会で、平成28（2016）年度は前年度に続き、一島正真師（天台宗泉倉寺住職）・ケネス田中師（武蔵野大学教授）の両氏を招き、月1回（第4木曜日午後1時半〜）開催しました。

▼仏教を初歩英語で

学ぶ会

仏教精神や文化に隔たりを感じている方がたに、英

語という切り口で仏教を学び、改めて仏教の叡智のすばらしさを再認識していただくための講座で、講師のケネス田中師（武蔵野大学教授）の日本語とネイティブの英語で楽しく講義を進めました。月1回（第4木曜日午後7時〜）開催。尚、平成28（2016）年度からは「仏教伝道協会認定／仏教英語ガイド」コースを新設しました。



坐禅会

▼働く人のための

坐禅会

今日、多くの方がさまざまな環境下でストレスを溜め込んでしまい、こころに余裕を持つことができないという声を聞きます。このような方がたに坐禅を通して

て、こころや頭の整理をしていただくため、坐禅会を主催しています。平成28(2016)年度も昨年度に続き、天台宗圓融寺住職の阿純章師を招き、月1回(第3火曜日午後8時)、わかりやすい法話と坐禅(止観)指導をいただきました。

▼**仏教ヨガ講座**

仏教とヨガの側面から、穏やかに健康な生活を過ごしていただくため、ヨガ講座を主催しています。昨年に続き、ガッソ有香(Yuka)師(浄土宗誓願寺)を講師に招き、月1回(第1水曜日午後7時)、初心者でもヨガ

を通じて心と身体の声に耳を傾けられるよう、わかりやすく丁寧に指導していただきました。

▼**三田落語会**

日本の伝統芸能の多くは、仏教の節談説教にその源が



三田落語会

あるといわれており、なかでも最も庶民に親しまれ、語り継がれてきたのが落語です。三田落語会は正しい形で継承した落語を、また埋もれている数多くの噺を掘り起こしてあらたに世に紹介し、落語を通じてその根幹を流れる仏教精神を触れていただく落語会です。平成28(2016)年度は隔月(偶数月)で開催しました。

※今後の各種講座の開催情報については、仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
<http://www.bdk.or.jp>

Activity **08**
「仏教を初歩英語で学ぶ会」プログラム新設

「仏教を初歩英語で学ぶ会」は平成23(2011)年に開始され、これまでに多くの参加者に英語を通して仏教思想を学ぶカリキュラムを実施してきました。

近年、外国人観光客が増え、その多くの方がたは日本仏教寺院を参拝されてい

ます。しかし、残念ながら寺院に關係する英語標記や英文説明が乏しく、せっかく

参拝した外国人観光客もただ境内を見て終わるというケースは少なくないようです。そこで、本講座を受講されている方がたが、より熱意をもって継続的に学んでいただけよう、また外国人観光客に英語で仏教を説

明できる人材の育成に貢献することを目的に、従来の「仏教を初歩英語で学ぶ会」のなかで、当協会認定の「仏教英語ガイド」プログラムを新設しました。平成28(2016)年度は、3級テスト用のプログラムを講座内容に盛り込み参加者を募集したところ、当初の定員である40名の2倍にあたる80名が通年の講座に参加し、約40名が3級テスト(筆記・口頭)に挑戦しました。平成29(2017)年度は、2級テスト用の

※仏教を初歩英語で学ぶ会や「仏教英語ガイド」プログラムの詳細につきましては、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。
<http://www.bdk.or.jp>



仏教を初歩英語で学ぶ会 平成28年度合格証授与式にて

平成28(2016)年度 BDKシンポジウム

Symposium

「ココロのゆくえ」開催

平成28(2016)年度のメインテーマを「ココロのゆくえ」とし、メディアや現場の第一線で活躍されている方がたを講師に迎え、当協会シンポジウム第10回目、第11回目、第12回目となる3回のシンポジウムを企画しました。



各回、講師自身に副題を付けていただき、「仏教」「教育」「医学」の立場から「ココロ」について語っていただきました。毎回、定員の120名を超える参加者がありました。たくさんの方の喜びの声を聞くことができました。平成29(2017)年度も仏教をより身近に感じていただけるようなシンポジウムの企画をしてみたいと思います。

各講演概要・講師略歴



第10回

テーマ：「深層心からの健康—唯識思想に学ぶ—」

開催日：平成28(2016)年5月26日(木)

時間：18:00~20:00

講演者：横山 紘一 (よこやま・こういつ) 立教大学名誉教授



第11回

テーマ：「今、病みゆく子どもたち…宗教に求められていること」

開催日：平成28(2016)年9月13日(火)

時間：18:00~20:00

講演者：水谷 修 (みずたに・おさむ) 元教師、教育評論家



第12回

テーマ：「坐禅をセロトニン神経から読み解く」

開催日：平成29(2017)年3月10日(金)

時間：18:00~20:00

講演者：有田 秀穂 (ありた・ひでほ) 東邦大学医学部名誉教授

ちょっと
ひと休み

現代人のための 「月1精進料理生活」のすすめ

飯沼康祐師（天台宗福昌寺副住職）に教わる

「精進ゆば」を使った 自宅で**簡単**ほっこりごはんレシピ

編集・撮影 ● 公益財団法人仏教伝道協会 江口郁
レシピ考案 ● 福昌寺 飯沼康祐

ゆばとブロッコリーの茎の

炊き込みごはん

ゆばと黒豆のお粥

出汁に動物性の食品を
使用しない「精進ゆば」

健康的な食生活が注目されながらも、慢性的ともいえる飽食の問題に一人ひとりが目を向けていただければと思うこの頃です。

栄養のバランスを考え、手間暇をかけて調理したものがゆつくりといただくことが出来れば最高ですが、日々を忙しく過ごされている方がたには難しいことも多いかと思えます。そこで今回は、月に1度でも、食材ひとつひとつを大切に、余すことなくいただく、そして心と体のデトックスにもおすすめのレシピを、料理僧でお馴染みの飯沼康祐師に考案していただきました。

また今回は特別企画として、今春、株式会社ミットヨ

フーズより新発売された「精進ゆば」（出汁にも動物性の素材を一切使用していない巻ゆば製品）を使用した、ほっこり出来るごはんレシピをご紹介します。

栄養価が高く、古来から重宝されている食材に大豆食品があげられますが、一口に大豆食品といっても様ざまです。豆腐を筆頭に、納豆、お揚げなど日々の食卓に上げるものも多くありますが、今回は、大豆をふんだんに使用した「ゆば」に着目しました。「ゆば」といえば、和食専門店やスーパーで提供されるイメージをお持ちの方もいらっしゃると思いますが、一般家庭でも気軽に楽しめるよう大豆食品事業に注目し、その

量産化に成功したのが、当協

会の創設者でもある沼田恵範でした。『不殺生による食品産業への構想を描き、仏教精神を「食」の面からも世界へ伝えたい』との願いから、昭和61（1986）年に創業されたのが株式会社ミットヨフーズです。

ゆば自体は完全に植物性の食品ですが、厳密にいえば味を付ける際に使用する出汁には動物性の素材を使用しているものが多いのが現状です。そこでこの度、出汁にも全く動物性の食品を使用していない「精進ゆば」を開発したことで、より多くの方がたに「ゆば」に親しんでいただく機会を提供出来るようになりました。

「精進ゆば」をご自宅で！

商品に関するお問い合わせ・ご注文は、株式会社ミットヨフーズまでお願いします。

<ミットヨフーズ>

電話：0120-010-797（通話料無料）

公式HP：<http://www.mitutoyofoods.co.jp/index.html>



食材を無駄にしない*捨ててしまいがちな野菜の茎を利用した ゆばとブロッコリーの茎の炊き込みごはん

レシピ考案 ● 福昌寺 飯沼康祐

材料(2人前)

- 精進ゆば 3個 = 1/2パック (5ミリ程度の幅に刻む)
- A 精進ゆば出汁50cc = 1/2パック分 (昆布出汁、椎茸出汁でも可) ・ 水120cc ・ 薄口醤油10cc
- ※ 「精進ゆば」 1パックあたりの内容量 = ゆば6個、出汁100cc入
- ブロッコリーの茎 50g (外皮を薄く剥いてから、細かくみじん切り程度に刻む)
- 米 1合 (研いだ後、15分間浸水→ザルにあげ15分間水切りをする)
- ごま油 大さじ1/2
- 味噌 (お好みの味噌) 小さじ1
- すりごま (白ごま) 適量

作り方

- 1 米と刻んだ精進ゆばとAを炊飯器に入れて炊く。

🍷 ここがポイント!

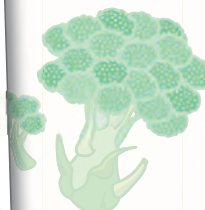
米は必ず浸水させた上で水切りしておくと、水分が適度に含まれ、ふっくらと炊きあがります。

- 2 細かく刻んだブロッコリーの芯をごま油、味噌と炒める。

🍷 ここがポイント!

味噌は敢えて大雑把に炒めましょう。香ばしいところ、そうでないところの味のむらが出来て、より一層味噌の風味が引き立ちます。

- 3 炊きあがったご飯に②を混ぜ合わせて、すりごまをふって完成。



新食感*ゆばと黒豆のお粥

材料(2人前)

- 精進ゆば 3個=1/2パック(5ミリ程度の幅に刻む)
- A精進ゆば出汁 50cc=1/2パック(昆布出汁、椎茸出汁でも可)・水 500cc・塩少々
※「精進ゆば」1パックあたりの内容量=ゆば6個、出汁100cc入
- 黒豆 30g(節分用の豆で炊いても良いです←その場合は乾煎りの必要はありません)
- 米 3/4合(研いだ後、15分間浸水→ザルにあげ15分間水切りをする)
- 塩 少々
- わさび お好み

作り方

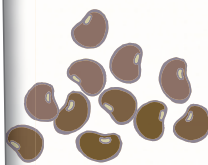
1 2~3分程度しっかりと黒豆を乾煎りする。(黒豆にうっすら筋が入り軽くはじける程度が目安。)

2 1をAに入れ軽く沸騰させ、湯面がフツフツしてきたところに米を投入。再びフツフツしてきたら弱火で10分間煮る。

🍷ここがポイント!

ここで蓋はせず、火加減は湯面がフツフツする状態をキープすることで、米がふっくら美味しく炊きあがります。

3 火を止め、刻んだ精進ゆばを加え、蓋をして3分間蒸らして完成。
(別皿に塩とわさびを用意し、お好みで加える。)



レシピ考案

飯沼康祐 (いいぬま・こうゆう)

天台宗福昌寺副住職。昭和57(1982)年川崎市生まれ。19歳の夏に比叡山延暦寺で出家得度。大正大学在学中に食を通じた布教を志す。卒業後、都内飲食店で料理修業をしながら調理師免許取得。現在お寺を中心に各地で精進料理会を開催。主なものとして「坐りびと・旬粥」、「時をみる会」など。

発願者 沼田恵範 二十三回忌を経て

平成28(2016)年4月5日、株式会社ミットヨ創業者、公益財団法人仏教伝道協会の発願者である沼田恵範(平成6・1994年寂)の二十三回忌法要を株式会社ミットヨ・仏教伝道協会の合同で執り行いました。

浄土真宗本願寺派築地本願寺 副宗務長 山本政秀師 御導師のもと、音楽法要が営まれ、当協会理事 上山大峻師より法話をいただき、約100名の参列者と共に仏教伝道に生涯を捧げた発願者を偲びました。

参列した関係者は、この法要を機縁として、あらためて発願者の仏教伝道への願いを確認し、その遺志を受け継いでいくことを誓い合いました。



23 回忌法要

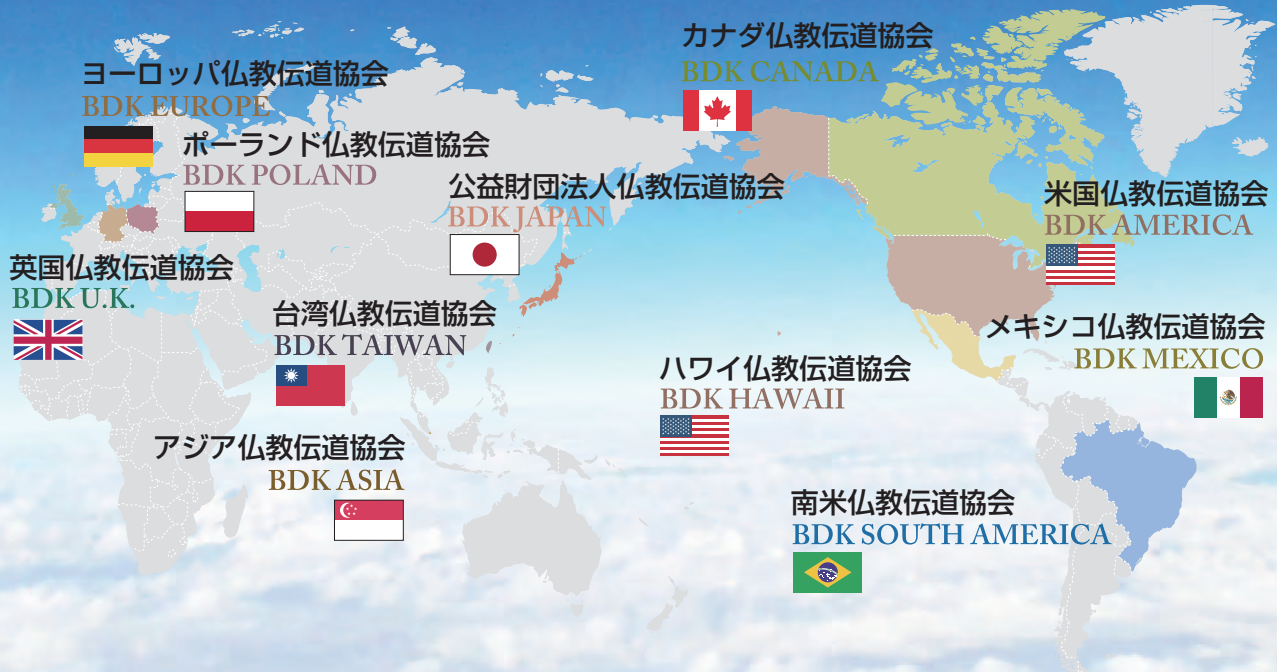


23 回忌法要装飾



発願者 沼田恵範

海外協力機関のご紹介



お問い合わせ一覧

●各国での『仏教聖典』頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America
 1675 School Street,
 Moraga, CA 94556 U.S.A.
 Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
 E-mail: orders@bdkamerica.org (対応言語: 日本語・英語)
<http://www.bdkamerica.org>

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii
 1757 Algaroba Street,
 Honolulu, HI 96826, U.S.A.
 Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622
 E-mail: bdkhawaii@gmail.com (対応言語: 英語)
<http://www.bdkhawaii.com/>

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada
 c/o Mitutoyo Canada Inc.
 2121 Meadowvale Blvd.
 Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
 Tel: +1(905)821-1261 Fax: +1(905)821-4968
 E-mail: honjo@bdkcanada.com (対応言語: 日本語・英語)

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico
 Prolg. Eugenia No. 17, Col. Nápoles, C.P.03810
 México D.F., MEXICO
 Tel/Fax: +52(55)5669-1088
 E-mail: bdkmexico@prodigy.net.mx (対応言語: 日本語・スペイン語)

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America
 a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
 Rodovia Índio Tibiriçá 1555, BAIRRO RAFFO, CEP 08620-000
 SUZANO-SP, BRASIL
 Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
 E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語)

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe (EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.)

Brüggener Weg 6,
 40547 Düsseldorf, F.R. GERMANY
 Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
 E-mail: pool@eko-haus.de (対応言語: 日本語・ドイツ語)
<http://www.eko-haus.de>

英国仏教伝道協会
BDK U.K.
 c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
 Business Park, Andover, Hants SP10 3UX U.K.
 Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
 E-mail: bdk@mitutoyo.co.uk (対応言語: 日本語・英語)

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland
 c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
 UL. Graniczna 8A 54-610 Wroclaw, POLAND
 Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
 (対応言語: ポーランド語・英語)

日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia
 c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
 24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
 Singapore, 339415, SINGAPORE
 Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
 E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan
 4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
 Taipei City 114, TAIWAN (R.O.C)
 Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
 E-mail: sharon@mitutoyo.com.tw (対応言語: 日本語・英語・中国語)



 米国仏教伝道協会

NORTH AMERICA

**米国仏教伝道協会
BDKアメリカ**

(アメリカ・カリフォルニア州)

「日本仏教宗派の集い」開催
(於 バークレー浄土真宗センター)

平成28(2016)年2月22日、23日の二日間にわたり、米国仏教伝道協会(BDKアメリカ)主催で、在アメリカ日本仏教各宗派の代表を集めた会議を浄土真宗センター(カリフォルニア州バークレー市)にて開催しました。高野山真言宗、真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、曹洞宗、日蓮宗(五十音順)の代表者が、約120年のアメリカ仏教の歴史上、初めて一堂に会しました。

カリフォルニア大学バークレー校のマーク・ブラム教授による「21世紀におけるアメリカでの日本仏教の影響」、南カリフォルニア大学のダンカン・ウィリアム教授による「アメリカでの日本仏教の現状」、サンフランシスコ大学のジョン・ネルソン教授による「アメリカでの日本仏教の未来」の講義に基づいて有意義な議論が交わされました。

この歴史的な会議の最後に、これらもこのような場を設けて、日本仏教をアメリカで広めていく上で、各宗派が直面している問題解決に取り組んでいくことで一同一致しました。



マーク・ブラム教授による講義「日本仏教宗派の集い」にて



「日本仏教宗派の集い」参加者



2016年度「沼田智秀仏教書籍優秀賞」受賞者 Janet Gyatso 教授(右)とタナベ理事長(左)

平成28(2016)年
「沼田智秀仏教書籍優秀賞」
受賞者決定

毎年その年に英語で刊行された仏教関連書籍の中から優秀な書籍に贈られる「沼田智秀仏教書籍優秀賞」に「Janet Gyatso博士(ハーバード大学教授)の『Being Human in a Buddhist World: An Intellectual History of Medicine in Early Modern Tibet』(コロンビア大学出版)が受賞しました。表彰式および受賞記念シンポジウムは、10月28日にカリフォルニア大学バークレー校において約70名の参加のもと開催しました。



NORTH AMERICA

沼田仏教講座 コーディネーター会議開催

平成28(2016)年11月18日に、アメリカ宗教アカデミーの年次総会が開催されたテキサス州サンアントニオにて、沼田仏教講座コーディネーター



沼田仏教講座コーディネーター会議



米国仏教伝道協会ブースにて(東京大学より Charles Muller 教授、丸井浩教授)

ーター会議を開催しました。沼田仏教講座を開設しているアメリカ、カナダの各大学より11名のコーディネーターが参加し、2016年のプログラムの実施状況報告と今後の計画について活発な討議を行いました。
**フツダのこことばとインドの風景
写真展開催**

平成28(2016)年12月1日から12月9日まで、カリフォルニア州バークレー市にある浄土真宗センターで、「フツダのこことばとインドの風景」の写真展を開催しました。約200名の来場者があり、来場された方がたからは、大変好評を得ることができました。

この写真展は、公益財団法人仏教



アメリカ宗教アカデミーの年次総会に出展した米国仏教伝道協会ブース



「フツダのこことばとインドの風景」写真展

伝道協会の設立50周年記念行事のひとつとして、平成23(2011)年に東日本を襲った大地震と津波の被害を受けられた方がたの心を癒し、生きる活力を得ていただきたいという願いのもと、平成27(2015)年に日本各地で開催され、非常に大きな反響を得たものです。この催しをひとりでも多くの方がたに観ていただくという思いで、関係者各位のご協力を得て、今回アメリカでの開催が叶いました。

※写真展は、今後アメリカ各地での開催を予定しています。本件の詳細やその他アメリカおよび北米圏での活動に関しては、直接米国仏教伝道協会までお問い合わせをお願いいたします。

ハワイ仏教伝道協会 BDKハワイ

(アメリカ・ハワイ州)

ハワイ書籍・音楽祭へ出展 (於 ホノルル市役所)

ハワイ仏教伝道協会では、平成28(2016)年も引き続き、地元仏教団体と協力し合い、地域社会に貢献

すべく特別プログラムを支援しました。

5月には、ホノルル市役所で開催された「ハワイ書籍・音楽祭」へ出展させていただきました。当日は、15,000名を超える来場者があり、私たちのテントへもパネル・ディスプレイ目当ての沢山の方がたが訪れました。

ハワイに於ける寺院建築、仏教文

🇺🇸 ハワイ仏教伝道協会



「ハワイ書籍・音楽祭」でのパネル・ディスカッション



アメリカ軍へ『仏教聖典』および法輪オブジェの寄贈

献の翻訳、ハワイに於ける仏教寺院の未来、アメリカ的禅、瞑想と仏教的心理療法、社会参画仏教、キリスト教とハワイ先住民の宗教の計7つのトピックを留意し、それぞれ活発な討論が行われました。

自殺防止講座開催 (於 ハワイ東本願寺)

8月には、サマリタン・カウンセリング・センター、ハワイ東本願寺と共同で、自殺防止講座を開催しました。ハワイでは、二日に一人の割合で

自殺者がいるといわれています。本講座では、この隠された真実に着目し、ピッツバーグよりMichelle Snyder氏をお招きして「Soul Shop (魂の工作室)」と名付けられたプログラムを実施しました。このプログラムは、主に宗教者が心に問題を抱える人びとを救うべく考えられたもので、当日は50名を越える方がたが参加されましたが、参加者の約半数が仏教徒の方がただったようです。

ハワイでの『仏教聖典』寄贈状況 〜アメリカ陸軍チャブレンへの 書籍・法輪モニュメント寄贈

ハワイ仏教伝道協会では、アメリカ陸軍チャブレンと親交があり、基地やHale Koa Hotel(ワイキキに在

る軍関係者が休暇に利用するホテル)へ『仏教聖典』を寄贈させていただいています。

この度『仏教聖典』に加え、アメリカ太平洋軍で最高位のチャブレンであるColonel Charles Lynde氏より依頼を受け、従軍している仏教徒の方がたが利用するホノルルのチャペルへ法輪モニュメントを寄贈しました。近年、アメリカ軍には仏教を信仰している方が増えていそう、その数はユダヤ教やイスラム教を信じる方がたよりも多いのだそうです。

BDKハワイビル改修

現在、ハワイ仏教伝道協会の活動は、主にBDKハワイビルの家賃収入によって支えられていますが、このビルも築22年となり、改修が必要な時期となりました。この度、株式会社ミットヨと公益財団法人仏教伝道協会のご協力のもと、竣工以来初の大規模改修を行うことができました。今回の改修のお陰で、これからも安心して地域の方がたへ仏教を伝えることが出来ると、ほっと胸をなで下ろしています。

※その他ハワイでの活動に関しては、直接ハワイ仏教伝道協会までお問い合わせをお願いします。



戸高住職名誉博士号授与式（学生たちを囲んで戸高住職：一番左、Leon 学長：一番右）

メキシコ仏教伝道協会 ・メキシコ恵光寺 BDKメキシコ (メキシコ)

メキシコ恵光寺 戸高住職
アルヴァ・エディソン大学より
名誉博士号授与

メキシコ恵光寺の戸高紘一住職は、長年の活動が評価され、アルヴ

ア・エディソン大学（メキシコ・プエブラ州）より、名誉博士号を授与されることとなりました。

平成28（2016）年12月の式典では、アルヴァ・エディソン大学学長の Jorge Leon 教授より戸高住職へ名誉博士号が授与され、謝辞の中で、戸高住職より、『仏教聖典』が「競争社会を勝ち抜くためではなく、共存共栄するための優れた教科書」になる旨、改めて伝えられました。また学生の皆さんへ向け「是非、大学で学んだ

専門知識を正しく、世のため、人のために役立ててほしい」と訴え、更には、より質の高い国際人になるべく、「流行に流されず、正しい判断・行動が出来る人間になるべきだ」とも伝えられました。そして最後に「式典を良いご縁として一緒に切磋琢磨してまいります」と述べ、学生の皆さんを励ましつつも今後の活動に向けた力強い言葉で締めくくりました。

アジア仏教伝道協会 BDKアジア (シンガポール)

タイでの『仏教聖典』頒布活動
(ミットヨ・タイからの報告)

※その他メキシコおよび中南米圏での活動に関しては、直接メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺までお問い合わせをお願いします。

国民の95%が仏教徒といわれるタイ王国において、ミットヨ・タイは、ミットヨ測定機の販売とサービスの提供と共に、創業者沼田恵範の「創業の精神」に基づき、『仏教聖典』の頒布を行っており、主にミットヨ商品をご使用いただいているお客さま、販売協力をいただいている代理店の皆さま、また大学や職業訓練校の図書館などへ寄贈しています。

今回は、平成28（2016）年1月25日に泰日工業大学で開催された「コマ大会」にスポンサーとして参加し、参加した学生さん60名全員に対し、参加賞として『仏教聖典』を配布しました。「コマ大会」は、泰日工業大学の学生自身が学校設備の旋盤を用い、自身の持てる技術を注ぎ作成した自作のコマを持ち寄り、土俵の上で、一対一で戦い回

 台湾仏教伝道協会



コマ大会にて タイ・ミットヨによる『仏教聖典』寄贈



代理店・スミポール社名が記載された『仏教聖典』

時間の長さを競う大会です。またミットヨの代理店であるスミポール社と共同で学校向けに測定セミナーを開催しました。この学校はシリントーン王女（現国王の妹）が、貧しく学校へ通えない子供たちも学ぶ機会が得られるようにと、王室内に設立した学校施設にある技術専門学校です。私たちが行う測定セミナーの際には、創業者沼田恵範の「創業の精神」をタイ語で紹介し、また『仏



コマ大会

※その他のタイ王国およびアジア圏での活動に関しては、直接アジア仏教伝道協会（シンガポール）までお問い合わせをお願いします。

- （創業の精神）
- ① 創業者が会社設立に託した強い思いの幸福に寄与する
 - ② 仏教伝道の支援を通じて人々の幸福に寄与する
- ※活動する領域において世界のトップレベルを目指す

教聖典』の背面に各代理店の名入りシールを貼り、学生さんや先生がたへ頒布しています。

台湾仏教伝道協会
BDK台湾（台湾）

台湾仏教伝道協会
2016年総会開催

平成28（2016）年12月15日、二年に一度開催している台湾仏教伝道協会の総会が行われました。公益財団法人仏教伝道協会より、生田忠士常務理事が出席、世界における仏教伝道協会の活動を紹介し、そして今後の活動についてご指導をいただきました。また、チベット仏教の「慧吉祥仁波切」生き仏をお招きし、「仏教と生活」をテーマに講演を行っていただき、大変貴重な経験となりました。今回総会に出席された皆さまは、台湾ミットヨ社員をはじめ、各代理店や専門販売店の関係者など、計110名となりました。仏教を通じて、日本と台湾の文化交流が行われ、大変意義ある機会となりました。

※その他台湾での活動に関しては、直接台湾仏教伝道協会までお問い合わせをお願いします。



台湾仏教伝道協会総会





ヨーロッパ仏教伝道協会

ヨーロッパ仏教伝道協会 「恵光」日本文化センター BDKヨーロッパ (ドイツ) 浄土真宗センター 通信教育スクーリングの開催

平成28(2016)年8月20日〜21日、ドイツ恵光寺にて、浄土真宗センターの通信教育スクーリングが開催されました。浄土真宗センターはアメリカのバークレー市にある北米開教の拠点で、同センターが開講している浄土真宗の通信教育は、北米を中心に世界各国の人びとが受講しています。受講生たちは毎年夏にバークレーの浄土真宗センターで行われるスクーリング(面接授業)に参加するのが通例ですが、今回初めてバークレー以外の場所で行われました。

アメリカ・カナダ・ブラジルから生徒たちが参加し、ヨーロッパ在住の通信教育OBも加わったため、30名近くの方がたが恵光寺に集まりました。開催当日は、まず参加者を対象にした恵光センター見学ツアーが行われ、多くの方がたがヨーロッパの地に広がる日本庭園に驚きの声を上げていました。見学の後、本堂での開会式に続き、恵光ホールに場所を移して、アメリカ・カナダの開教使ら

による講義。午後からは本堂で正信偈のお勤めの練習が行われ、夕食後は参加者たちによる浄土真宗の教えに関するディスカッションが行われました。討論は非常に白熱し、当初の終了予定時間を大幅に過ぎ、夜9時頃まで続きました。

「週末坐禅会」開催

恵光日本文化センターでは、春と秋の年二回、恵光ホールにて「週末坐禅会」を開催しています。平成28(2016)年は、4月15日〜17日、12月2日〜4日の日程で、日本より講師

をお招きして開催しました。

春は廣見宗泰師(臨濟宗)、秋は岸田宣昭師(臨濟宗)の指導のもと、いずれも定員一杯の30名の参加者と共務の時間を設け、参加者たちがセンター内や庭園等の清掃を行いました。毎回定員を上回る程のお申し込みをいただき、多くの方がたが参加されています。

※ドイツおよび欧州圏での活動に関しては、直接ヨーロッパ仏教伝道協会・恵光日本文化センターまでお問い合わせをお願いします。



恵光センターに広がる日本庭園(満開の桜)



週末坐禅会参加者(岸田宣昭師:前列中央を囲んで)

英国仏教伝道協会

ポーランド仏教伝道協会

英国仏教伝道協会 BDK UK (イギリス)

ロンドン大学
東洋アフリカ研究学院 (SOAS)
創立100周年記念式典開催

平成28(2016)年9月8日にロンドン大学 東洋アフリカ研究学院 (通称SOAS: The School of Oriental and African Studies) において SOAS 創立100周年記念式典が開催され、公益財団法人仏教伝道協会より沼田智秀会長、生田忠士常務理事が出席しました。SOASでは現在 Lucia Dolce 教授のもと、沼田仏教学講座が開催されており、式典当日は SOAS の Valerie Amos 学長の他、関係者の方がたとの親睦を図る事ができました。

また、その前日にはロンドンにある浄土真宗正行寺ロンドン道場を訪問させていただき、英国での仏教伝道活動についての話をお伺いし、敷地内にある見事な枯山水風の日本庭園も拝見させていただきました。海外で活動する団体同士が親交を深めることができ、意義深い訪問となりました。

※その他英国内での活動に関しては、直接英国仏教伝道協会までお問い合わせをお願いします。



SOASにて(左から Valerie Amos 学長、故沼田智秀会長、Lucia Dolce 沼田仏教学講座担当教授)

〔英国仏教伝道協会よりお知らせ〕平成28(2016)年9月に英国仏教伝道協会の片山貴司理事が日本へ帰国し、後任として須磨俊介が英国仏教伝道協会の業務を引き継ぐ事となりました。前任に引き続き、仏教伝道協会の活動に尽力していく所存です。

ポーランド仏教伝道協会 BDK ポーランド

(ポーランド)

『ポーランド仏教伝道協会』設立

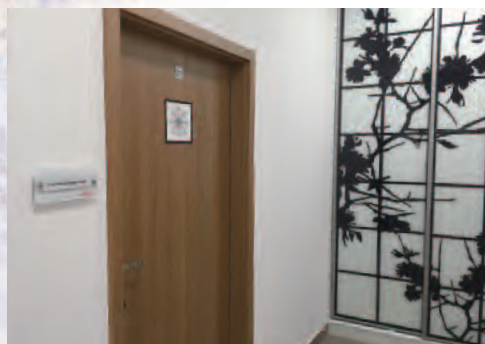
長年にわたり欧州圏での『仏教聖典』頒布活動を推進し、仏教の持つ慈悲と共生の精神をひとりでも多くの人に伝える活動をご支援いただいている英国仏教伝道協会およびヨーロッパ仏教伝道協会ですが、この度、それらの活動を更に推進すべく、新たにポーランド仏教伝道協会が設立されました。

ポーランド仏教伝道協会では、ポーランド・ミットヨのご尽力もあり、平成28(2016)年1月に正式に活動を開始し、ポーランド国内をはじめ、周辺諸国への対応も可能となりました。今後も地域社会に貢献すべく、一歩一歩活動を進めていく予定です。

※ポーランド国内での『仏教聖典』頒布やその他活動に関しては、直接ポーランド仏教伝道協会へお問い合わせをお願いします。



ポーランド仏教伝道協会オフィス内



ポーランド仏教伝道協会オフィス入り口

平和（へいわ）

一般的には戦争がなく、世の中が穏やかなことを平和といいますが、たとえ戦争はなくても、一人ひとりの「いのち」が大切にされない、いわんや差別が存在する世の中は決して平和ではありません。

多数派が少数派に圧力をかけ、少数派に息の詰まる思いをさせ、一方的な理由づけで一部の人を差別する世の中には平和はありません。

権力を持つものは、特にそのことに注意しなければなりません。

積尊の教えにも、政治を行う人が、仏を信じ、教えを信じて、慈悲深く徳のある人を敬い、これに供養するならば、敵もなく、恨みもなく、国家は必ず栄えるに違いない。

そして、国が富み栄えるならば、他の国を貪り攻めることもなく、また他を攻める武器の必要もなくなるであろう。

したがって、国民も満足して楽しみを受け、

上下和らいでむつまじあう。（『金光明経』）
とあります。

（仏教伝道協会 第二代会長 沼田智秀 著『ささえあって』―百八つのおもい―より）